

# 2016年度 授業要覧

## 地球社会共生学部 履修ガイド



青山学院大学

## 教育方針・理念

---

### 青山学院教育方針

---

青山学院の教育は  
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、  
神の前に真実に生き  
真理を謙虚に追求し  
愛と奉仕の精神をもって  
すべての人と社会に対する責任を  
進んで果たす人間の形成を目的とする。

### 青山学院大学の理念

---

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、  
神と人とに仕え社会に貢献する  
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。  
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって  
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。  
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。  
本学のすべての教員、職員、学生は、  
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、  
おのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

# 地球社会共生学部

## 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

地球社会共生学部の教育課程は青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

### ◆カリキュラム体系

地球上のさまざまな地域で起こっている差別や貧困、紛争、情報格差などの諸問題に挑戦するグローバル人材となるために、一定水準の語学力、コミュニケーション力、情報活用力等のスキルを身に着ける。同時に、社会科学、人文科学の幅広い素養を修得するため以下の4領域を幅広く学ぶとともにそのなかのひとつを自らの専門として深く修める。

1. 世界のことを知る・知らせるメディア/空間情報
2. 世界を分析し理解するソシオロジー
3. 世界と協力し連携するコラボレーション
4. 世界と協働し同じ価値を共創するビジネス

### 特色

1. 各人の関心と将来活躍する分野に応じて4領域の科目群から柔軟に科目を選択してみずからの学びを構築することができるカリキュラムが提供される。
2. 上記4領域の学びを通して身に着ける「知恵」と、留学という経験・体験等で培われる行動力、実現力などの「力」を重視した教育がなされる。
3. 地球社会において貢献できる人材に必要な「共生」マインドを培うものとして、留学プログラムを学部教育の重要な柱と位置付けている。

## 「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

地球社会共生学部は、以下の5つの要素を身に着け、人と痛みを共有し、人種、宗教、国家の枠を越え、地球規模の視野に基づき、世界の人々と共に目線で協働できる知恵と力を持った学生に対し、「学士（学術）」を授与する。

1. 一定水準の語学力に裏打ちされた十分なコミュニケーション能力
2. 主体性、積極性、協調性、リーダーシップなどのコンピテンシー
3. 自己アイデンティティを持ったうえでの異文化に対する共感力
4. 社会科学の幅広い素養のうえに築かれた明確な専門能力
5. 学院モットー「地の塩、世の光」を体现し、地球上の人々に貢献したいと思う「こころ」



## 総目次

I. キリスト教教育について	2
II. 大学での学習活動について	3
1 大学での学習とは（カリキュラム／履修）	
2 単位（単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定）	
3 授業科目の種類と配置（授業科目の種類／履修年次／履修順序）	
III. 履修について	6
1 履修計画（履修計画の立案／履修計画上の注意）	
2 履修登録（履修登録について／履修登録の方法／履修登録の確認と修正／履修取消制度について／履修取消申請方法／青山学院女子短期大学との単位互換制度について）	
IV. 学部履修要項	11
V. 授業について	42
1 授業（授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について）	
2 大学からの伝達	
3 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について	
VI. 試験・レポートについて	45
1 試験の種別（定期試験／平常試験／レポート／追試験）	
2 定期試験の受験（定期試験時間／受験上の注意／不正行為）	
3 追試験（申請資格／申請方法／追試験時間・採点）	
VII. 成績評価について（成績評価／G.P.A./成績通知／成績調査）	49
VIII. 進級および卒業について（進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度）	51
IX. 学籍について	52
（修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転学部・転学科）	
X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について	54
XI. 大学院について	61
卷末 教務窓口について	

# I. キリスト教教育について

## 本学のキリスト教教育

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な学校です。したがって、その中に設置された青山学院大学においても、キリスト教教育を非常に重視しています。

本学における教育の特徴が他の国公立や私立の大学と異なる最もユニークな点は、このキリスト教による教育方針にあるといえます。

この教育方針をまっとうするために、本学には次の3つの基本的プログラムがあります。

- (1) 大学礼拝 (2) キリスト教概論 (3) 宗教センター活動

### (1) 大学礼拝

大学では、キリスト教教育の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています（礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 18時～18時30分、相模原・月～金 10時30分～11時）。大学礼拝は、キリスト教の信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。また大学礼拝は教会における礼拝とは異なり、キリスト教信者だけの礼拝ではありません。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、大学礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。

### (2) キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論」があります。この講義は、本学建学の精神であるキリスト教の信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践などの問題を理解するとともに、キリスト教の意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。その他数多くのキリスト教関連科目が青山スタンダード（テーマ別科目）、スーパー・プログラム科目、各学科科目のなかに配置され、みなさんの知的好奇心にチャレンジしています。

### (3) 宗教センター活動

青山学院は、プロテstant・キリスト教信仰の上に創立された学園であり、宗教センターは、特に、メソジスト教会の創始者、ジョンおよびチャールズ・ウェスレー兄弟の信仰的伝統を重んじ、キリスト教活動を行っています。青山キャンパスは間島記念館1階に、相模原キャンパスはC棟（チャペル）1階にそれぞれ宗教センターがあり、学生キリスト教活動の中心になっています。

各宗教センターでは、みなさんのために「聖書に親しむ会」、「キリスト教文化に親しむ会」、青山キリスト教学生会（ACF）、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ゴスペル・クワイアまた、キリスト教図書の閲覧、講演会・コンサートの開催、研修旅行の実施などの活動が行われており、学生生活に色彩とバランスをあたえるために重要な役割を果たしています。さらに、各宗教センターには大学の専任教員でもある宗教主任（牧師）がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。この宗教センター活動は他大学とは異なる本学独特的のシステムであり、みなさんの利用を待っています。活動の詳細は「キリスト教活動のしおり」ならびに宗教センターWebサイトを参照してください。

## Ⅱ. 大学での学習活動について

### 1. 大学での学習とは

#### カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

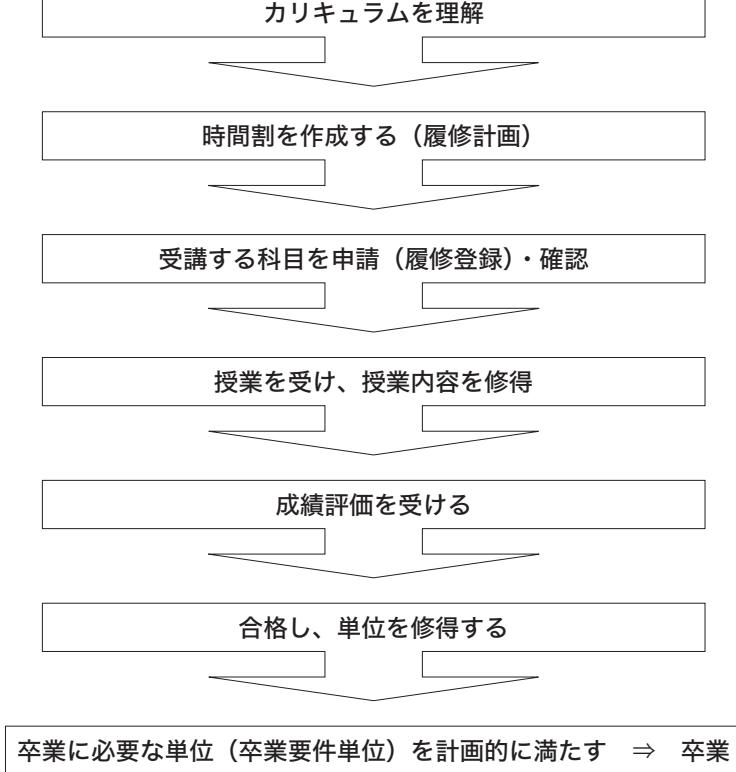
カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「IV. 学部履修要項」を参照してください。

#### 履 修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「単位修得」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下のようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

## 2. 単位

### 単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ1単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「IV. 学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

### 単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したもので、授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

### 単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	1単位の標準=“45時間の学修が必要な内容”
-------------	------------------------

#### 本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	1単位=授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	1単位=授業30～45時間分

15時間の講義科目（1単位）を例に取ると、“45時間の学修を必要とする内容”で1単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表します。本学での1时限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1时限=“2時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

15週×2時間=30時間分=2単位  
となります。

#### 実際の単位数

半期科目 (前期のみ、または後期のみの科目)	15週で完結 ・講義科目なら2単位 ・演習科目なら2単位または1単位 ・実験・実習・実技科目なら1単位
通年科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結 ・講義科目なら4単位 ・演習科目なら4単位または2単位 ・実験・実習・実技科目なら2単位

### 既修得単位の認定

新たに入学した1年生で、本学入学以前に他大学・短期大学すでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間（入学式翌日～前期授業開始日）に書類を所属キャンパスの教務窓口に提出し申請してください。各学部・学科の基準に従って単位が認定されます。既修得単位として認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。（大学学則第42条参照）この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

編入・転学部・転学科した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間（入学手続時配付書類に記載）に書類を所属キャンパスの教務窓口に提出し申請してください。

### 協定校・認定校留学による 単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことにより、留学先で修得した単位が各学部・学科の基準に従って認定されます。既修得単位と

して認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。（大学学則第42条参照）ただし、教員免許状取得希望者の場合、認定された科目の単位は、教員免許状取得に係る単位として証明されません。

### 3. 授業科目の種類と配置

#### 授業科目の種類

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の3つに区分されます。

##### 授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしていく必要があります。

また、授業の開講期間によって、1年を通じて実施する「通年科目」、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、夏期・冬期休業期間などをを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

#### 履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい学年のことです。履修年次は、4年間の学習を系統的に行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「IV. 学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「IV. 学部履修要項」で確認してください。

#### 履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、4年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「IV. 学部履修要項」に記載されています。

### III. 履修について

#### 1. 履修計画

##### 履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

第一部では、1年間で履修申請できる単位数が決められています。下記の(1)～(5)にそって、履修計画を立ててください。

- (1) 年度初めのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。

- (2) カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「IV. 学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

- (3) 各授業科目の講義内容を知る。

Web 版『講義内容』（「学生ポータル」の「講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。具体的な授業内容を知りたい場合は、履修登録期間中に受講してみる、受講時に担当者に確認するなどの方法でも講義内容を確認できます。（履修登録期間終了後は、履修登録をしていない科目を受講することはできません。）

「IV. 学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「IV. 学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

- (4) 卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「IV. 学部履修要項」、「X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

- (5) 履修したい科目を検討する。

どの曜日・時限に授業を履修するか、『授業時間割表』（「学生ポータル」よりアクセス可能）や履修ガイダンス時に配布された資料等を参照しながら検討してください。

##### 履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

- (1) 同一時限に、2科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）

- (2) 第一部では各学部・学科で1年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められており、その単位数を超えて履修することはできません。

教職課程関連科目および教職課程科目については「IV. 学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。

- (3) 既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）

- (4) 他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時間の間に実施されている授業科目の履修はできません。
- (5) 他学部科目の履修を希望する場合、「IV. 学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参照してください。
- (6) 第一部の学生が第二部開講科目を履修することはできません。
- (7) 履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目の登録が無効となります。
- (8) 受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

## 2. 履修登録

### 履修登録について

#### 1. 履修登録

「履修登録」は、年度初頭に、その年度に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。(集中講義科目、後期に開講される科目も年度初頭に履修登録を行います。) 一科目でも登録もれや登録間違いがあってはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。履修登録期間は「学生ポータル」で確認してください。

**制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なりますので、注意してください。**

#### 2. 後期履修変更

後期に履修変更期間を設けます。前期科目の成績を確認したうえで再度履修を見直し、必要がある場合はWeb 履修登録システムを使用して各自で履修の変更を行ってください。履修変更期間以降の修正は、一切認めません。後期履修変更期間は、「学生ポータル」で確認してください。

後期の履修変更に際しては、次の5点に注意してください。

- (1) 履修制限単位内で、後期科目のみの修正を行うことができます。
- (2) 受講者を制限する科目（抽選・制限カード・受講許可等）に関わる変更はできません。
- (3) 通年科目を削除しなければならない変更はできません。
- (4) 前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。
- (5) (2)～(4)の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修変更期間中に追加できる単位数は次のとおりです。(第一部学生のみ)

$$\text{後期履修変更期間に追加できる単位数} = \frac{\text{当該年度の最高履修制限単位}}{\text{(後期科目のみ)}} - \left[ \begin{array}{l} \text{前期修得単位数} \\ + \\ \text{前期に修得できなかった単位数} \\ + \\ \text{履修取消科目の単位数} \\ + \\ \text{通年科目の単位数} \end{array} \right]$$

## 履修登録の方法

本学の履修登録は、基本的には Web 上のシステム「Web 履修登録システム」で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。

### 【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字 5 衡で表示されている	Web 履修登録システムを利用して、自分で登録できます。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
+++++	Web で抽選または選考を行う科目です。Web 履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。
*****	Web 以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所（オリエンテーション期間中や初回授業等）で申請してください。申請方法については、『学年初頭行事』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
# # # # #	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。
-----	受講が許可された学生のみ登録できます。学部学科等の指示に従ってください。

### 【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週 2 回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

### 【集中講義科目】

集中講義科目とは、曜日・時間にかかわらず、一定の期間に集中して授業を行う科目です。『授業時間割表』の各学部・学科注意事項を確認のうえ登録してください。

### 【「健康・スポーツ演習」・「スポーツ運動実習】

『学年初頭行事』を参照のうえ、これらの科目に関するガイドラインに出席してください。

## 履修登録の確認と修正

履修登録最終日は、アクセスが多く、登録に時間がかかります。「混みあってアクセスできなかった」という理由は認められませんので、余裕をもって履修登録が完了するようにしてください。

エラーが表示されたら、適切に対処してください。自分で解決できない場合は、所属キャンパス教務窓口で相談してください。

登録や修正を行った後は、必ず「履修登録画面」で誤りがないか確認してください。印刷した履修登録リストは、年度末まで保管してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

履修登録を行ったつもりで登録されていなかった科目や、誤って登録してしまった科目については、間違えたまま授業に出席し試験を受けても単位を修得することができないばかりでなく、登録していない科目の試験を受けることは不正行為とみなされ、処分の対象となります（『試験における不正行為者処分規則施行細則』第 2 条参照）ので注意してください。

## 履修取消制度について

期日までに履修登録をしない場合は、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録（または後期履修変更）期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。

詳細は以下のとおりです。

1) 対象者：全学部生

2) 対象科目：下記①、②を除く全科目

① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）

② 制限科目

※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「IV. 学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。

※ 夏期集中科目（後期扱い）の取消は前期の履修取消期間に申請してください。

3) 履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。

4) 履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。

5) 履修取消科目の成績評価の表示：

① 成績通知書：「W」

② 成績証明書：記載しない。

## 履修取消申請方法

履修取消の申請は、所定の期間内に所属キャンパスの教務窓口でのみ受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。履修取消申請受付期間は、「学生ポータル」で確認してください。

## 青山学院女子短期大学との単位互換制度について

本学では青山学院女子短期大学との相互交流を促進し、学生の教育研究上の必要のため、単位互換に関する協定を締結しています。

本制度の利用を希望する学生は以下を参照し、履修手続きを行ってください。

1) 対象者：全学部生（2016年度は女子学生のみ）

2) 対象学年：2年生～4年生

3) 対象科目：別途「学生ポータル」にて指示。

4) 履修方法：定められた期間内に手続きを行ってください。

手続きについての期間や詳細は「学生ポータル」で確認してください。

※1 履修が認められた科目の履修変更、履修取消は認めません。

※2 受講に際しては女子短期大学の学事暦・時間割に従います。

5) 単位認定：所定の合格基準に達した場合は、大学の科目として単位が付与されます。成績証明書および成績通知書には「++」と表示されます。なお、単位が付与された場合でも、卒業要件には含まれません。



## IV. 地球社会共生学部履修要項

【1】 履修について.....	12
1. 卒業要件.....	12
2. クラスターについて.....	12
3. 最高履修制限単位.....	12
4. 海外留学について.....	12
5. 進級条件.....	12
6. 修得単位僅少者.....	12
【2】 青山スタンダード科目履修方法および配置表.....	13
【3】 外国語科目履修方法および配置表.....	23
【4】 専門科目履修方法および配置表.....	24
【5】 自由選択科目履修方法.....	31
他学部科目一覧表.....	32

# 【1】履修について

## 1. 卒業要件

### (1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表に示す区分にしたがって必要な単位を修得しなければなりません。ここに示す単位数は科目の種別毎に必要な最低の単位数なので、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

### (2) 学位について

地球社会共生学部に4年以上（ただし8年を限度）在籍し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士（学術）の学位を授与します。

### 卒業に必要な最低単位数

科目的種類	必選の別	必要単位
青山スタンダード科目（13ページ参照）		26
外国語科目	必修	16
専門科目	Fundamental Module Group	必修
	Introductory Module Group	選択必修
	Basic Module Group	選択必修
	Advanced Module Group	選択必修
	Capstone Module Group	選択必修
	専門選択科目	選択
	小計	66
自由選択科目	選択	16
総計		124

## 2. クラスターについて

地球社会共生学部においては、各自の興味や関心に応じて、2年次より中心とする分野として4クラスター（メディア/空間情報クラスター（M/SI）、ソシオロジークラスター（S）、コラボレーションクラスター（C）、ビジネスクラスター（B））のいずれかを選択する必要があります。クラスター選択については、1年次の後期に必ず所定の手続きをとってください。（所定の手続きを行わない場合、当該学生のクラスターは相模原事務部学務課により決定します。）決定後にクラスターの変更をすることはできません。

## 3. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。また、各年次においては、必ず1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	46	46	48	184

注）各種資格（司書・社会教育主事・学芸員）の資格を取得希望する学生で教職課程科目を履修する場合は、上記最高履修制限単位外で履修できます。

## 4. 海外留学について

地球社会共生学部においては、卒業までに全学部生が海外留学をする必要があります。海外留学は、必修科目フィールドスタディーI（28ページ参照）の履修条件になっています。（海外留学の詳細については、「地球社会共生学部留学ガイド」を確認してください。）

## 5. 進級条件

1年次終了時に、20単位（地球社会共生学部卒業要件単位）以上修得していなければ2年次に進級できません。

## 6. 修得単位僅少者

入学後の2年間（休学期間を除く）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、特に注意してください。

## 【2】青山スタンダード科目履修方法および配置表

### 1. 全学部に共通する教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に共通する教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けることを到達目標とする」として、青山スタンダード科目を開講しています。

### 2. 履修方法

科目的種類			必選の別	必要単位
青山 スタンダード 科目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語	※1
			第二外国語	※2 ※3
		身体の技能		必修
		情報の技能		必修
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修
	5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかつた2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修
	フレッシャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)～(5)で修得した科目は除く)			選択
				6

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキルI-1、I-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

- ・第二外国語科目は、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます。
- ・「インテンシブ・(第二外国語)」は週に半期4クラスをセットとし前後期で履修登録するものです。このうち前期4クラスのどれか一つでも不合格となれば後期4クラスを履修することはできません。
- ・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)II」あるいは「(第二外国語)会話(I)」は、「(第二外国語)I」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。
- ・「(第二外国語)III」は、「インテンシブ・(第二外国語)(A)～(D)-1」あるいは「(第二外国語)II-2」の単位を修得した者のみが履修を認められます。
- ・「(第二外国語)会話(II)」は、「インテンシブ・(第二外国語)(A)～(D)-1」「(第二外国語)II-2」あるいは「(第二外国語)会話(I)-2」の単位を修得した者のみ履修を認められます。

※4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報・地球社会共生のみ必修です。

○必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。

○第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件中の自由選択科目に算入されます。

○受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

## 3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

	授業科目	単位	履修年次	備考
	フレッシャーズ・セミナー	2	1	1年生のみ
	ウェルカム・レクチャー	2	1	1年生のみ
	キャリアデザイン・セミナー	2	1	1年生のみ
教養コア科目	(キリスト教理解関連科目) <b>キリスト教概論Ⅰ</b>	2	1	
	(人間理解関連科目) 自己理解(総合科目)	2	1	(総合科目)：複数の教員による担当
	自己理解(個別科目)	2	1	(個別科目)：一人の教員による担当
	(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題(総合科目)	2	1	(総合科目)：複数の教員による担当
	現代社会の諸問題(個別科目)	2	1	(個別科目)：一人の教員による担当
	(自然理解関連科目) 科学・技術の視点(総合科目)	2	1	(総合科目)：複数の教員による担当
	科学・技術の視点(個別科目)	2	1	(個別科目)：一人の教員による担当
	(歴史理解関連科目) 歴史と人間(総合科目)	2	1	(総合科目)：複数の教員による担当
	歴史と人間(個別科目)	2	1	(個別科目)：一人の教員による担当
技能コア科目	英語 第二外国語	英語スキルⅠ-1	1	1年生のみ
		英語スキルⅠ-2	1	1年生のみ
		(第二外国語)Ⅰ(A)-1	1	1
		(第二外国語)Ⅰ(A)-2	1	1
		(第二外国語)Ⅰ(B)-1	1	1
		(第二外国語)Ⅰ(B)-2	1	1
		英語Ⅰ-1	1	1
		英語Ⅰ-2	1	1
		英語(I A)-1	1	1
		英語(I A)-2	1	1
		英語(I B)-1	1	1
		英語(I B)-2	1	1
		日本語Ⅰ(A)-1	1	1
		日本語Ⅰ(A)-2	1	1
		日本語Ⅰ(B)-1	1	1
		日本語Ⅰ(B)-2	1	1
身技体能の 情報能力の	健 康・ス ポ ーツ 演 習	2	1	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報・地球社会共生のみ必修
	情 報 ス キ ル I	2	1	
テーマ別科目 キリスト教理解関連科目 (領域A)	キリスト教概論Ⅱ	2	2・3	理工学部・社会情報学部は2年次、他は3年次配置
	旧約聖書と人間	2	2・3・4	
	新約聖書と人間	2	2・3・4	
	キリスト教生命倫理	2	2・3・4	

キリスト教理解関連科目 (領域A)	キリスト教政治倫理	2	2・3・4	
	キリスト教と自然科学	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	キリスト教環境倫理	2	2・3・4	両キャンバス隔年開講
	キリスト教音楽	2	2・3・4	
	キリスト教美術	2	2・3・4	
	メソジスト教会史	2	2・3・4	
	世界の諸宗教	2	2・3・4	両キャンバス隔年開講
	聖書の中の女性たち(旧約)	2	2・3・4	両キャンバス隔年開講
	聖書の中の女性たち(新約)	2	2・3・4	両キャンバス隔年開講
	サービス・ラーニングⅠ	2	2・3・4	
	サービス・ラーニングⅡ	2	2・3・4	
	海外語学・キリスト教文化研修	2	2・3・4	
テーマ別科目 人間理解関連科目 (領域B)	哲学 A	2	2・3・4	
	哲学 B	2	2・3・4	
	哲学の諸問題 A	2	2・3・4	
	哲学の諸問題 B	2	2・3・4	
	哲学の諸問題 C	2	2・3・4	
	哲学の諸問題 D	2	2・3・4	
	論理学 A	2	2・3・4	
	論理学 B	2	2・3・4	
	論理学の諸問題 A	2	2・3・4	
	論理学の諸問題 B	2	2・3・4	
	倫理学 A	2	2・3・4	
	倫理学 B	2	2・3・4	
	倫理学の諸問題 A	2	2・3・4	
	倫理学の諸問題 B	2	2・3・4	
	西洋倫理思想史 A	2	2・3・4	
	西洋倫理思想史 B	2	2・3・4	
	言語学 A	2	2・3・4	
	言語学 B	2	2・3・4	
	日本語学 A	2	2・3・4	
	日本語学 B	2	2・3・4	
	文学 A	2	2・3・4	
	文学 B	2	2・3・4	
	文学史 A	2	2・3・4	
	文学史 B	2	2・3・4	
	美術 A	2	2・3・4	
	美術 B	2	2・3・4	
	美術史 A	2	2・3・4	
	美術史 B	2	2・3・4	
	音楽 A	2	2・3・4	
	音楽 B	2	2・3・4	

人間理解関連科目 (領域B)	音 楽 史 A	2	2・3・4	
	音 楽 史 B	2	2・3・4	
	文 化 人 類 学 A	2	2・3・4	
	文 化 人 類 学 B	2	2・3・4	
	比 較 文 化 A	2	2・3・4	
	比 較 文 化 B	2	2・3・4	
	比 較 文 化 の 諸 問 題 A	2	2・3・4	
	比 較 文 化 の 諸 問 題 B	2	2・3・4	
	心 理 学 A	2	2・3・4	心理学科除く
	心 理 学 B	2	2・3・4	心理学科除く
	教 育 学 A	2	2・3・4	
	教 育 学 B	2	2・3・4	
	平 和 を 考 え る A	2	2・3・4	
	平 和 を 考 え る B	2	2・3・4	
	人間関係とコミュニケーションA	2	2・3・4	
	人間関係とコミュニケーションB	2	2・3・4	
テ リ マ 別 科 目  社会理解関連科目 (領域C)	文化とコミュニケーションA	2	2・3・4	
	文化とコミュニケーションB	2	2・3・4	
	法 学 (日本国憲法を含む) A	2	2・3・4	法学部除く。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
	法 学 (日本国憲法を含む) B	2	2・3・4	
	日 本 の 法 と 社 会 A	2	2・3・4	
	日 本 の 法 と 社 会 B	2	2・3・4	
	国 際 政 治 経 済 学 A	2	2・3・4	
	国 際 政 治 経 済 学 B	2	2・3・4	
	国 際 関 係 概 論 A	2	2・3・4	
	国 際 関 係 概 論 B	2	2・3・4	
	社 会 学 A	2	2・3・4	
	社 会 学 B	2	2・3・4	
	現 代 社 会 と 教 育 人 間 学 A	2	2・3・4	
	現 代 社 会 と 教 育 人 間 学 B	2	2・3・4	
	経 济 学 A	2	2・3・4	経済学部除く
	経 济 学 B	2	2・3・4	経済学部除く
	情 報 社 会 科 学 A	2	2・3・4	
	情 報 社 会 科 学 B	2	2・3・4	
	情 報 社 会 論	2	2・3・4	
	社 会 と 情 報	2	2・3・4	
	人 口 問 題 A	2	2・3・4	
	人 口 問 題 B	2	2・3・4	
	フ ェ ミ ニ ズ ム A	2	2・3・4	
	フ ェ ミ ニ ズ ム B	2	2・3・4	
	民 族 問 題 A	2	2・3・4	
	民 族 問 題 B	2	2・3・4	

社会理解 関連科目 (領域C)	マスメディアと社会	2	2・3・4	
	データサイエンス	2	2・3・4	
	福祉と人間A	2	2・3・4	
	福祉と人間B	2	2・3・4	
	グローバリゼーションとWTO	2	2・3・4	
	日本農業とWTO	2	2・3・4	
	環境問題と社会	2	2・3・4	NPO環境平和持続の会寄附講座
テーマ別 科目 自然理解 関連科目 (領域D)	金融と生活設計	2	2・3・4	金融広報中央委員会寄附講座
	技術史A	2	2・3・4	
	技術史B	2	2・3・4	
	日常生活の数理	2	2・3・4	
	数理科学入門I	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く
	数理科学入門II	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く
	数理科学の視点	2	2・3・4	
	数理モデル	2	2・3・4	
	自然科学概論A	2	2・3・4	
	自然科学概論B	2	2・3・4	
	文化としての科学・技術A	2	2・3・4	
	文化としての科学・技術B	2	2・3・4	
	生活と先端テクノロジー	2	2・3・4	
	ライフサイエンス	2	2・3・4	
	ゲノム	2	2・3・4	
	生物と地球環境	2	2・3・4	
	地球環境保全	2	2・3・4	
	バイオテクノロジーと生命倫理	2	2・3・4	
生物学 (領域E)	メカの世界	2	2・3・4	
	生命と地球の歴史	2	2・3・4	
	宇宙科学	2	2・3・4	
	野鳥の生態	2	2・3・4	
	鳥類と生物多様性	2	2・3・4	
	植物生態学	2	2・3・4	
	先端エレクトロニクス	2	2・3・4	
	環境科学A	2	2・3・4	
	環境科学B	2	2・3・4	
	自然地理学A	2	2・3・4	
	自然地理学B	2	2・3・4	
	科学史	2	2・3・4	
	生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	
	生命の連続(遺伝)	2	2・3・4	

歴史理解関連科目 (領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	
	日本社会史A	2	2・3・4	
	日本社会史B	2	2・3・4	
	日本社会史C	2	2・3・4	
	中国史A	2	2・3・4	
	中国史B	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史A	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史B	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史C	2	2・3・4	
	現代史A	2	2・3・4	
	現代史B	2	2・3・4	
	現代史C	2	2・3・4	
	現代史D	2	2・3・4	
	考古学A	2	2・3・4	
	考古学B	2	2・3・4	
	科学思想史A	2	2・3・4	
テーマ別科目 言葉の技能 (領域F)	インテンシブ・(第二外国語)(A)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	インテンシブ・(第二外国語)(A)-2	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(B)-1	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(B)-2	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(C)-1	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(C)-2	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(D)-1	1	2・3・4	
	インテンシブ・(第二外国語)(D)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語) II(A)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
	(第二外国語) II(A)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語) II(B)-1	1	2・3・4	
	(第二外国語) II(B)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語) II(C)-1	1	2・3・4	
	(第二外国語) II(C)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語) II-1	1	2・3・4	(第二外国語)はロシア語、韓国語を指します。
	(第二外国語) II-2	1	2・3・4	
	英語 II-1	1	2・3・4	フランス文学科のみ
	英語 II-2	1	2・3・4	
	英語 (II A)-1	1	2・3・4	
	英語 (II A)-2	1	2・3・4	
	英語 (II B)-1	1	2・3・4	
	英語 (II B)-2	1	2・3・4	
	日本語 II-1	1	2・3・4	
	日本語 II-2	1	2・3・4	
	(第二外国語) III-1	1	3・4	(第二外国語)はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	(第二外国語) III-2	1	3・4	

テ レ マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	フ ラ ン ス 語 III(A)- 1	1	3・4	フランス文学科除く
		フ ラ ン ス 語 III(A)- 2	1	3・4	
		フ ラ ン ス 語 III(B)- 1	1	3・4	
		フ ラ ン ス 語 III(B)- 2	1	3・4	
		英 語 III- 1	1	3・4	フランス文学科のみ
		英 語 III- 2	1	3・4	
		英 語 (III)- 1	1	3・4	外国人留学生のみ
		英 語 (III)- 2	1	3・4	
		日 本 語 III- 1	1	3・4	外国人留学生のみ
		日 本 語 III- 2	1	3・4	
		(第二外国語) 会話(I)- 1	1	2・3・4	(第二外国語) はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語(フランス文学科のみ)を指します。
		(第二外国語) 会話(I)- 2	1	2・3・4	
		(第二外国語) 会話(II)- 1	1	3・4	
		(第二外国語) 会話(II)- 2	1	3・4	
		日 本 語 (IS) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IF) A	1	3	
		日 本 語 (IS) B	1	3	
		日 本 語 (IF) B	1	3	
		日 本 語 (IS) C	1	3	
		日 本 語 (IF) C	1	3	
		日 本 語 (IS) D	1	3	
		日 本 語 (IF) D	1	3	
		日 本 語 (IIS) A	1	3	
		日 本 語 (IIF) A	1	3	
		日 本 語 (IIS) B	1	3	
		日 本 語 (IIF) B	1	3	
		日 本 語 (IIS) C	1	3	
		日 本 語 (IIF) C	1	3	
		日 本 語 (IIS) D	1	3	
		日 本 語 (IIF) D	1	3	
		日 本 語 (IIIIS) A	1	3	
		日 本 語 (IIIF) A	1	3	
		日 本 語 (IIIIS) B	1	3	
		日 本 語 (IIIF) B	1	3	
		日 本 語 (IIIIS) C	1	3	
		日 本 語 (IIIF) C	1	3	
		日 本 語 (IIIIS) D	1	3	
		日 本 語 (IIIF) D	1	3	
		日 本 語 (IVS) A	1	3	
		日 本 語 (IVF) A	1	3	

テ レ マ 別 科 目	言葉の 技能 (領域F)	日本語 (IVS) B	1	3	
		日本語 (IVF) B	1	3	
		日本語 (IVS) C	1	3	
		日本語 (IVF) C	1	3	
		日本語 (IVS) D	1	3	
		日本語 (IVF) D	1	3	
		日本語 (VS) A	1	3	
		日本語 (VF) A	1	3	
		日本語 (VS) B	1	3	
		日本語 (VF) B	1	3	
		日本語 (VS) C	1	3	
		日本語 (VF) C	1	3	
		日本語 (VS) D	1	3	
		日本語 (VF) D	1	3	
		日本語 (VIS) A	1	3	
		日本語 (VIF) A	1	3	
		日本語 (VIS) B	1	3	
		日本語 (VIF) B	1	3	
		日本語 (VIS) C	1	3	
		日本語 (VIF) C	1	3	
		日本語 (VIS) D	1	3	
		日本語 (VIF) D	1	3	
		日本事情 (IS)	2	3	
		日本事情 (IF)	2	3	
		日本事情 (IIS)	2	3	
		日本事情 (IIF)	2	3	
		日本事情 (III S)	2	3	
		日本事情 (III F)	2	3	
		日本事情 (IVS)	2	3	
		日本事情 (IVF)	2	3	
		日本事情 (VS)	2	3	
		日本事情 (VF)	2	3	
		日本事情 (VIS)	2	3	
		日本事情 (VIF)	2	3	
アメリカ合衆国の社会と文化A		2	2・3・4		
アメリカ合衆国の社会と文化B		2	2・3・4		
アメリカ合衆国の社会と文化C		2	2・3・4		
英語圏の社会と文化 A		2	2・3・4	国際政治経済学部除く	
英語圏の社会と文化 B		2	2・3・4		
フランス語圏の社会と文化A		2	2・3・4		
フランス語圏の社会と文化B		2	2・3・4		
フランス語圏の社会と文化C		2	2・3・4		

交換留学生のみ

テ レ マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	ドイツ語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化C	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化C	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	2・3・4	
		イスラム圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		イスラム圏の社会と文化B	2	2・3・4	
	日本学	A	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
	日本学	B	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
	English Studies	A	2	2・3・4	
	English Studies	B	2	2・3・4	
	English Studies	C	2	2・3・4	
	English Studies	E	2	2・3・4	
	ことばの研究	A	2	2・3・4	
	ことばの研究	B	2	2・3・4	
	少数民族の社会と文化	A	2	2・3・4	
	少数民族の社会と文化	B	2	2・3・4	
	民族文化論	A	2	2・3・4	
	民族文化論	B	2	2・3・4	
	身体の技能 (領域G)	健 康 医 学	2	2・3・4	
		ス ポ ー ツ 生 理 学	2	2・3・4	
		ス ポ ー ツ バ イ オ メ カ ニ ク ス	2	2・3・4	
		ス ポ ー ツ 心 理 学	2	2・3・4	
		動 き の 人 間 学	2	2・3・4	
		医 療 社 会 学	2	2・3・4	
		ス ポ ー ツ 運 動 実 習	1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
	情報の技能 (領域H)	ア ド バン スト ス ポ ー ツ 実 習	2	2・3・4	
		現 代 社 会 に お け る 食 と 健 康	2	2・3・4	一般社団法人ファイブ・ア・ディ協会寄附講座
		ウェブプログラミング	2	2・3・4	
		コンピュータプログラミング	2	2・3・4	
		コンピュータと社会	2	2・3・4	
		デ 一 タ 分 析 入 門	2	2・3・4	

テ マ 別 科 目  キ ヤ リ ア の 技 能 ( 領 域 I )	情 報 ス キ ル II	2	2・3・4	
	eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4	
	キャリアデザイン基礎	2	2・3・4	
	キャリアデザイン応用	2	3・4	
	仕事力基礎論	2	2・3・4	
	国際ビジネス入門A	2	2・3・4	
	国際ビジネス入門B	2	2・3・4	
	感性ビジネスA －ファッショニズムのフロンティア－	2	2・3・4	
	感性ビジネスB －ファッショニズムのフロンティア－	2	2・3・4	
	感性ビジネスC －ファッショニズム・ビジネス戦略論－	2	2・3・4	(財)ファッショニズム産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
	感性ビジネスD －ファッショニズム・ビジネス戦略論－	2	2・3・4	(財)ファッショニズム産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
	パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	2・3・4	三井生命保険株式会社寄附講座
	企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	
	国際ビジネスと海外事情A	2	2・3・4	
	国際ビジネスと海外事情B	2	2・3・4	
	現代金融の諸問題	2	2・3・4	金融青山会寄附講座
	囲碁で養うロジカルシンキング	2	2・3・4	公益財団法人日本棋院寄附講座
	海外語学・文化研修I	2	2・3・4	
	海外語学・文化研修II	2	2・3・4	
	海外語学・文化研修III	2	2・3・4	
	インターンシップI	2	2・3・4	
	インターンシップII	2	2・3・4	
	インターンシップIII	2	2・3・4	
	ビジネスコミュニケーション	2	2・3・4	
	世界遺産入門	2	2・3・4	NPO法人世界遺産アカデミー寄附講座
	営業学入門	2	2・3・4	プルデンシャル生命保険株式会社寄附講座
	営業学基礎	2	2・3・4	プルデンシャル生命保険株式会社寄附講座

### 【3】 外国語科目履修方法および配置表

#### 1. 第一外国語

(1) 第一外国語の必要単位  
必修 (16単位)

(太字は必修科目)

授業科目名	単位	履修年次
Academic English (Speaking & Listening) I	3	1
Academic English (Speaking & Listening) II	3	1
Academic English (Reading & Writing) I	3	1
Academic English (Reading & Writing) II	3	1
Academic English (Applied Skills)	4	2
Academic English (Advanced) ※特別クラス	4	2

※ 「Academic English (Advanced)」は、英語能力が一定水準を超えた学生が履修するための特別クラスです。履修年次2年次の「Academic English (Applied Skills)」と「Academic English (Advanced)」は、クラス分けによりいずれかを履修することになります。

(2) 他学部の第一外国語科目は履修することができません。

#### 2. 外国語選択科目

(1) 外国語選択科目について

以下の学部外国語科目は自由選択科目として履修できます。

授業科目名	単位	履修年次
アジアの言語と文化 I (タイ語初級)	1	1～
アジアの言語と文化 II (タイ語中級)	1	1～
異文化理解 (語学) ※	1	2～

※ 「異文化理解 (語学)」は学部の定める海外留学において、留学先大学で修得した必修もしくはそれに準じる科目を単位認定するための認定科目です。4単位まで重複して認定することができます。

#### 3. 外国人留学生の履修方法および必要単位

(1) 第一外国語  
必修 (16単位)

「1. 第一外国語」(1)の表と同じ科目を履修することとします。

(2) 第二外国語  
必修 (4 単位)

青山スタンダード科目 技能コア 言葉の技能の履修方法は次のとおりです。

(太字は必修科目)

授業科目名	単位	履修年次	備考
日本語 I (A) - 1	1	1	
日本語 I (A) - 2	1	1	日本語 I (A) - 1 修得者のみ履修可
日本語 I (B) - 1	1	1	
日本語 I (B) - 2	1	1	日本語 I (B) - 1 修得者のみ履修可
日本語 II - 1	1	2	
日本語 II - 2	1	2	日本語 II - 1 修得者のみ履修可
日本語 III - 1	1	3	
日本語 III - 2	1	3	日本語 III - 1 修得者のみ履修可

※ I、II、IIIの履修順序はありません。

※ 必修4単位を超えて修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

## 【4】 専門科目履修方法および配置表

### 1. 専門科目履修方法

専門科目必要単位数一覧

科目的種類	必選の別	必要単位
Fundamental Module Group	必修	8
Introductory Module Group	選択必修	8
Basic Module Group	選択必修	8
Advanced Module Group	選択必修	12
Capstone Module Group	選択必修	4
専門選択科目	選択	26
合計		66

#### 《専門科目の必要単位（66単位）》

具体的な科目配置は「2. 専門科目配置表」を参照してください。

##### 【Fundamental Module Group】

「地球共生学Ⅰ」「地球共生学Ⅱ」「フィールドワーク論」「フィールドスタディーⅠ」「フィールドスタディーⅡ」の5科目（計8単位）を必修とします。（必修以外の科目の単位を修得した場合、専門選択科目に算入されます。）

##### 【Introductory Module Group】

下記の各クラスター科目から2単位ずつ（計8単位）を選択必修とします。

メディア/空間情報クラスター（M/SI）、ソシオロジークラスター（S）、コラボレーションクラスター（C）、ビジネスクラスター（B）

##### 【Basic Module Group】

8単位を選択必修とします。

##### 【Advanced Module Group】

1年次に選択したクラスターの科目の中から12単位を選択必修とします。

##### 【Capstone Module Group】

4単位を選択必修とします。

##### 【専門選択科目】

専門科目の中から26単位を自由に選択します。専門科目で上記必要単位を超過して修得した科目およびStudySkill Module Group、Japan Studiesの科目の単位が算入されます。

### 2. 専門科目配置表

専門科目配置表 (太字は必修科目)

科目区分	授業科目	単位	履修年次	備考
StudySkill Module Group	レポート作成法演習	2	1～	
	リーダーシップ論演習Ⅰ	2	1～	
	リーダーシップ論演習Ⅱ	2	1～	
	コミュニケーション論演習	2	1～	
	ビジネスマナー演習	2	1～	
	留学準備セミナー	2	1～	
	Web 入門と情報リテラシー	2	1～	
	Web コミュニケーション	2	1～	
	はじめての空間情報システム	2	1～	

StudySkill Module Group	アジアの言語と文化Ⅲ（近代タイ史）	2	1～	
	アジアの言語と文化Ⅳ（アセアン文化基礎）	2	1～	
	日本語学概論	2	1～	
	日本語教授法	2	1～	
	文章作成法	2	1～	
Fundamental Module Group	<b>地球共生学Ⅰ</b>	2	1	オムニバス オムニバス(全8回)  集中 集中
	<b>地球共生学Ⅱ</b>	1	1	
	世界の青学	2	1～	
	産業界トップから海外を学ぶ	2	1～	
	地球市民論入門	2	1～	
	ロジカル・シンキング入門	2	1～	
	クリティカル・シンキング入門	2	1～	
	レトリック入門	2	1～	
	知の技法入門	2	1～	
	研究手法論入門	2	1～	
	基礎演習	2	2～	
	フィールドワーク論	2	2	
	フィールドスタディーⅠ	2	3	
	フィールドスタディーⅡ	1	3	
Introductory Module Group	クラスマディア ／空間情報 S	ジャーナリズムの歴史 情報インパクト論入門 空間情報システム入門Ⅰ 空間情報システム入門Ⅱ	2 2 2 2	1～ 1～ 1～ 1～
	クラシックソーシャル S	社会学入門 社会心理学入門 文化人類学入門	2 2 2	1～ 1～ 1～
	クラシックボート S	国際政治学入門 国際協力論入門 国際開発学入門	2 2 2	1～ 1～ 1～
	クラシックビジネス B	経済学入門 統計学入門 アジアの経済入門 日本経済入門	2 2 2 2	1～ 1～ 1～ 1～
Basic Module Group		メディアの法律と倫理 ジャーナリスト論 メディア・コミュニティ 空間情報学基礎Ⅰ 空間情報学基礎Ⅱ 空間情報デザイン基礎 空間的思考 グローバル世論動向論 文化資源とメディア グローバル社会メディア論 空間情報の取得技術 空間情報の表現技術 空間情報の共有技術 社会学概論 グローバリゼーションの社会学 人口の社会学 家族の社会学 ジェンダーの社会学 地域社会保健福祉論 健康社会情報学 環境と健康	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～ 2～

Basic Module Group	社会調査論 I	2	2～	
	社会調査論 II	2	2～	
	コンピュータ統計学	2	2～	
	貧困と開発	2	2～	
	国際関係論	2	2～	
	人間の安全保障論	2	2～	
	北東アジア地域社会論	2	2～	
	東南アジア地域社会論	2	2～	
	南アジア地域社会論	2	2～	
	比較文化論	2	2～	
	アジアの歴史と文化	2	2～	
	アジアの政治と文化	2	2～	
	国際経済学	2	2～	
	国際金融論	2	2～	
	国際投資貿易論	2	2～	
	共生の経済学	2	2～	
	社会的企業論	2	2～	
Advanced Module Group	NPO/NGO 論	2	2～	
	ミクロ経済学	2	2～	
	マクロ経済学	2	2～	
	経済統計学	2	2～	
	ジャーナリズム取材演習	2	2～	
	ニュースライティング	2	2～	
	インタビュー演習	2	2～	
	空間調査・測定法	2	2～	
	空間分析	2	2～	
	空間の利用と立地	2	2～	
	現代日本の論点	2	2～	
	知的財産と公共性	2	2～	
メデイア／空間情報クラスター（M/S/I）	メディアと思想潮流	2	2～	
	スポーツ・エンタメ・メディア	2	2～	
	応用空間情報学 I	2	2～	
	応用空間情報学 II	2	2～	
	応用空間情報学 III	2	2～	
	特殊講義 M (I)	2	2～	
	特殊講義 M (II)	2	2～	
	特殊講義 SI (I)	2	2～	
	特殊講義 SI (II)	2	2～	
	共生の社会学	2	2～	
	文化の社会学	2	2～	
ソシオロジークラスター（S）	教育の社会学	2	2～	
	宗教の社会学	2	2～	
	環境の社会学	2	2～	
	地域の社会学	2	2～	
	政治の社会学	2	2～	
	福祉の社会学	2	2～	
	現代社会論	2	2～	
	現代思想論	2	2～	
	国際比較論	2	2～	
	社会変動論	2	2～	
	社会階層論	2	2～	
	ソーシャル・ネットワーク論	2	2～	
	社会調査法 I	2	2～	
	社会調査法 II	2	2～	
	社会調査実習 I	2	3～	※1

Advanced Module Group	社会調査実習 II 特殊講義 S (I) 特殊講義 S (II) 特殊講義 S (III)	2	3 ~	※ 1
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
	国際機構論 国際協力戦略論 国際協力実践論 持続的開発論 社会・人間開発論 地域開発論 地球環境と資源 自然災害とリスク管理 紛争・難民・平和構築 国際文化関係論 多文化共生論 エンパワーメント論 文化芸術コミュニティ論 パフォーミング・アーツとコミュニティ スポーツとコミュニティ 特殊講義 C (I) 特殊講義 C (II) 特殊講義 C (III)	2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
Capstone Module Group	アジア新興国別戦略研究 I アジア新興国別戦略研究 II アフリカ諸国国別戦略研究 中南米諸国国別戦略研究 現代アジア経済史 アジア太平洋経済統合論 カントリー・リスク論 アジアの農業 アジアの交通・物流 アジアの都市インフラ 国際経営戦略論 アジアンビジネス論 ホスピタリティ論 アジアの観光 ツーリズムマネジメント 特殊講義 B (I) 特殊講義 B (II) 特殊講義 B (III)	2	2 ~	大和市寄附講座
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
		2	2 ~	
Japan Studies	Topics in Japanese Geography I Topics in Japanese Geography II Topics in Japanese Geography III Topics in Japanese Geography IV Topics in Japanese History I Topics in Japanese History II	2	1 ~	集中 集中
		2	1 ~	
		2	1 ~	
		2	1 ~	
		2	1 ~	
		2	1 ~	

Japan Studies	Topics in Japanese History III	2	1～	
	Topics in Japanese History IV	2	1～	
	Topics in Japanese Culture I	2	1～	
	Topics in Japanese Culture II	2	1～	
	Topics in Japanese Culture III	2	1～	
	Topics in Japanese Culture IV	2	1～	
	Topics in Japanese Economy,Business,and Policy I	2	1～	
	Topics in Japanese Economy,Business,and Policy II	2	1～	
	Topics in Japanese Economy,Business,and Policy III	2	1～	
	Topics in Japanese Economy,Business,and Policy IV	2	1～	

※1 「コンピュータ統計学」（2単位）を前年度までに修得済の者のみ履修可能です。

I・IIはセットで履修し、IIはIの単位を修得した場合のみ履修できます。

なお、科目的性格上、原則として受講人数制限を行います。

### 3. 「フィールドワーク論」「フィールドスタディーI」「フィールドスタディーII」の履修方法

「フィールドワーク論」「フィールドスタディーI」「フィールドスタディーII」の履修方法は以下のとおりです。

#### (1) 履修順序

履修条件	①	②	③
	(2年次前・後期配置必修科目)	①を履修し合格した場合のみ履修可（3年次以降必修科目）※注	②を履修中または修得済の者のみ履修可（3年次以降必修科目）※注
科目名	フィールドワーク論	フィールドスタディーI	フィールドスタディーII

注) 海外留学先の学期の都合により、履修に不都合が生じる場合には、海外留学前に相模原事務部学務課で相談してください。

#### (2) 履修について

##### 【「フィールドワーク論】

学部の定める海外留学をする前に必ず履修し、単位を修得することが留学の条件となります。

##### 【「フィールドスタディーI】

「フィールドスタディーI」は、学部の定める海外留学に行くことが履修条件になります。  
(「フィールドワーク論」を修得した者に限ります)

履修登録は海外留学終了後に学務課の指示に従い行ってください。

(2年次後期留学の場合は翌年度前期、3年次前期留学の場合は当該年度の後期に履修してください。)

##### 【「フィールドスタディーII】

「フィールドスタディーII」は、原則として「フィールドスタディーI」と同時履修してください。

## 4. 演習の履修方法

### (1) 履修順序

履修条件	①	②	③	④
	(3年次後期配置科目)	①の単位を修得した場合のみ履修可（4年次前期配置科目）	②の単位を修得した場合のみ履修可（4年次後期配置科目）	③と同時に履修する場合のみ履修可（4年次後期配置）
科目名	演習ⅠA 演習ⅠB	演習ⅡA	演習ⅡB	演習（卒論）

3年次後期以降に学部の定める海外留学に行く場合には、事前に相模原事務部学務課で相談してください。

### (2) 履修について

#### 【演習Ⅰの履修について】

- ① 演習Ⅰは、2年次前期に選考を受け、合格した場合に履修することができます。
- ② 「演習ⅠA」、「演習ⅠB」は同一教員となります。
- ③ 選考に合格した場合は、「演習ⅠA」「演習ⅠB」が事前登録科目として自動的に履修登録されます。各自で履修登録する必要はありません。
- ④ 選考申込・選考方法等は、2年次前期に配布する「AGU SEMINAR GUIDE」に掲載されます。内容を確認のうえ、期日までに申し込みをしてください。
- ⑤ 選考合格後に休学した場合、履修登録は自動的には行われませんので、履修を希望する場合は事前に相模原事務部学務課で相談してください。

#### 【演習Ⅱの履修について】

- ⑥ 演習Ⅱは「演習ⅠA」「演習ⅠB」の単位を修得済みの学生で、担当者の許可を得た場合に限り、履修を許可します。なお、許可された場合は、「演習ⅡA」「演習ⅡB」が事前登録科目として自動的に履修登録されます。各自で履修登録する必要はありません。
- ⑦ 「演習ⅡA」の単位が修得できない場合、「演習ⅡB」の科目的履修登録は自動的に削除されます。
- ⑧ 履修を希望しない場合は必ず前期授業開始日までに相模原事務部学務課窓口で履修辞退の手続きをしてください。なお、「演習ⅡB」のみの辞退は認められません。
- ⑨ 演習Ⅱの担当者変更を希望する場合には、相模原事務部学務課窓口にて「演習担当者変更申込要項」と「演習担当者変更届」を受取り、手続きをしてください。(演習Ⅱ受講者を新規募集する担当者への変更に限ります。)

#### 【演習（卒論）の履修について】

- ⑩ 「演習（卒論）」を履修する場合は、4月の履修登録期間中に、各自で履修登録してください。（「演習ⅡB」を同時に履修することおよび「演習ⅡB」と担当者が同一である場合に限ります。）なお、「演習（卒論）」は、履修取消制度および後期履修変更の対象外とします。
- ⑪ 「演習（卒論）」を履修する場合には必ず卒業論文を提出してください。
- ⑫ 「演習（卒論）」を履修する場合、この科目は必修になります。したがって、この単位を修得できない場合には、他の選択科目で卒業単位を充足していても卒業を認めません。

## 5. その他

### 社会調査士の資格取得について

地球社会共生学部では、「一般社団法人 社会調査協会」の資格認定制度に参加しており、所定の単位を修得し、資格認定を申請することで、「社会調査士」の資格を取得する道が開かれています。

「社会調査協会」によると、「社会調査士」は「調査企画から報告書作成までの社会調査の

全過程を体験することにより、調査方法や分析方法に関する基本的能力を有する者」とされており、このような能力は、今後、行政・企業・NGO・NPO・研究機関などさまざまな社会的分野で高く評価されるようになると考えられています。「社会調査士」の資格は、所定の単位を取得し、資格認定を申請することで、大学卒業時に取得できるものとなっています。「社会調査士」の資格を取得するには、「社会調査協会」の定める標準カリキュラムに対応する6科目の単位を修得することが必要です。(申請手続については、別途学生ポータルで連絡します。)

#### 社会調査士資格取得のためのカリキュラム

標準カリキュラム		本学部の対応授業科目
A	社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査論 I
B	調査設計と実施方法に関する科目	社会調査論 II
C	基本的な資料とデータ分析に関する科目	社会調査法 I
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	コンピュータ統計学
E	量的データ解析の方法に関する科目	社会調査法 II
F	質的な分析の方法に関する科目	フィールドワーク論
G	社会調査の実習を中心とする科目	社会調査実習 I・II、演習 I A・I B <sup>注1</sup>

※ E と F はどちらかひとつを選択してください。2科目とも履修することもできます。

※ G は、社会調査実習 I・II または演習 I A・I B のどちらかを選択してください。両方を履修することもできます(ただし、それぞれ受講人数制限または選考を行います)。

注1) G 科目に対応する演習 I A・I B に限ります。詳しくは例年前期に配布する「AGU SEMINAR GUIDE」を確認してください。なお、G 科目に対応する演習の履修を希望する場合は、以下に注意してください。

- ① 「コンピュータ統計学」(2 単位) の単位を前年度までに修得済の者のみ履修を認めます。
- ② 前期に演習 I A、後期に演習 I B を開講し、通年での履修となる場合があります。その場合、I B は I A の単位を修得した者のみ履修を認めます。

## 【5】自由選択科目履修方法

### 1. 自由選択科目の履修方法

- (1) 自由選択科目の必要単位  
選択（16単位）
- (2) 下記の科目は、自由選択科目として卒業要件単位に算入されます。
- ① 青山スタンダード科目、外国語科目、専門科目における卒業に必要な単位数を超えて修得した単位
  - ② 他学部の学科科目・専門科目  
履修については、「他学部科目一覧」を参照してください。
- 注1) 他学部の学科科目・専門科目を履修する場合は、当該学部で制限を受けていない科目に限ります。
- 注2) 本学部に同一名称・異名称同一科目がある他学部学科科目・専門科目の履修は認めません。

### 他学部科目一覧表

#### 他学部科目の履修について

他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。

履修については下記の点に注意してください。

1. 一覧表は他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、「担当者氏名」および「本年度休講」の掲載はしていませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。履修希望科目が講義内容および授業時間割に掲載されていない場合は本年度休講となっています。  
また、年度により一覧表の科目的うち履修を認めないなどの措置をとることがあります。
2. 修得した単位は、自由選択科目に算入されます。
3. 一覧表に掲載されている科目的うち、履修に制限がある場合には、開講学部の履修制限にしたがって履修してください。
4. 今後、各部の状況により変更が生じる場合がありますので、履修する際は自学部窓口にて確認をしてください。

#### 文学部共通科目

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
芸術文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	文化財科学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本の思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋の思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	現代思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	映像文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋音楽史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋音楽史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	生命倫理学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
詩論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	ギリシャ・ローマ文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	テクスト論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
物語文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	キリスト教文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	世界各地域の文学Ⅰ～Ⅶ	各2	2・3・4
児童文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	比較文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	言語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
比較言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	記号論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	古典ギリシャ語Ⅰ～Ⅳ	各2	2・3・4
ラテン語Ⅰ～Ⅳ	各2	2・3・4	出版ジャーナリズムⅠ・Ⅱ	各2	2・3・4	放送ジャーナリズムⅠ・Ⅱ	各2	2・3・4
認知言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	精神分析学入門Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	心理言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
イタリアの言語と文化Ⅰ～Ⅳ	各2	2・3・4	通訳ワークショップⅠ・Ⅱ	各2	3・4			

## 文学部英米文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
イギリス文学史 I・II	各2	1・2	イギリス文学概論 I・II	各2	1・2	イギリス文化概論 I・II	各2	1・2
アメリカ文学史 I・II	各2	1・2	アメリカ文学概論 I・II	各2	1・2	アメリカ文化概論 I・II	各2	1・2
グローバル文学・文化概論 I・II	各2	1・2	グローバル文学理論 I・II	各2	1・2	英語学概論 I・II	各2	1・2
英語史 I・II	各2	1・2	英文法 I・II	各2	1・2	コミュニケーション概論 I・II	各2	1・2
異文化間コミュニケーション概論 I・II	各2	1・2	英語教育学概論 I・II	各2	1・2	イギリス文学特講 I・II	各2	3・4
イギリス文化特講 I・II	各2	3・4	アメリカ文学特講 I・II	各2	3・4	アメリカ文化特講 I・II	各2	3・4
グローバル文学特講 I・II	各2	3・4	グローバル文化特講 I・II	各2	3・4	英語学特講 I・II	各2	3・4
言語学特講 I・II	各2	3・4	コミュニケーション特講 I・II	各2	3・4	英語教育学特講 I・II	各2	3・4
英詩概論 I・II	各2	3・4	イギリス事情 I・II	各2	3・4	アメリカ事情 I・II	各2	3・4
英語聖書 I・II	各2	3・4	メディアイングリッシュ I	2	3・4			

## 文学部フランス文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
※フランス語会話 I・II	各2	1	フランス文学研究 I・II	各2	3・4	フランス語学研究 I・II	各2	3・4
フランス文化研究 I・II	各2	3・4	講読演習 I・II	各2	3・4	エクスピリカシオン(A) I・(A)II	各2	3・4
エクスピリカシオン(B) I・(B)II	各2	3・4	コミュニケーション I・II	各2	3・4	コミュニケーション III・IV	各2	3・4
エクスピレシオン・エクリットIII・IV	各2	3・4	エクスピレシオン・エクリットV・VI	各2	3・4	フランス文学特講 I・II	各2	2・3・4
フランス語学特講 I・II	各2	2・3・4	フランス文化特講 I・II	各2	2・3・4	フランス文学演習 I・II	各2	2・3
フランス語学演習 I・II	各2	2・3	フランス文化演習 I・II	各2	2・3	フランス文学演習 III・IV	各2	3・4
フランス語学演習 III・IV	各2	3・4	フランス文化演習 III・IV	各2	3・4	フランス語教授法 I	4	3・4
フランス語教授法 II	4	3・4	フランス語作文 I・II	各2	2・3・4	フランス語学概論 I・II	各2	2・3・4
フランス語中級文法 I・II	各2	2・3・4						

※既修得者用クラスのみ履修可

## 文学部日本文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
日本文学史 (一)	2	1	日本文学史 (二)	2	1	日本文学史 (三)	2	2
日本文学史 (四)	2	2	古典文学概論 I・II	各2	1・2	近代文学概論 I・II	各2	1・2
漢文学概論 I・II	各2	1・2	日本語学概論 I・II	各2	1・2	日本語史 I・II	各2	1・2
表象文化研究概論 I・II	各2	1・2	日本学入門	2	1・2	文学交流入門	2	1・2
日本文学講読 I・II	各2	1・2	中国古典文学講読 I・II	各2	1・2	日本語学講読 I・II	各2	1・2
表象文化論 I・II	各2	2・3・4	日本文学特講 I・II	各2	2・3・4	日本文学特講 A・B	各2	1・2・3・4
中国古典文学特講 I・II	各2	2・3・4	中国文学・思想特講 I・II	各2	2・3・4	日本語学特講 I・II	各2	2・3・4
文学交流特講 A・B	各2	2・3・4	日本文学研究のための英語A・B	2	1・2	日本文学とアメリカ・ヨーロッパ	2	2・3・4
日本文学とアジア	2	2・3・4	書理論 I・II	各2	2・3・4			

## 他学部科目一覧表

### 文学部史学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
人文地理学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	日本史特講	2	2・3・4	東洋史特講	2	2・3・4
西洋史特講	2	2・3・4	考古学特講	2	2・3・4	史学特講A	2	1・2・3・4
史学特講B	2	1・2・3・4	自然地理学概論	2	2・3・4	地誌学	2	2・3・4
法律学	2	2・3・4	政治学	2	2・3・4	※博物館概論	2	2・3のみ
※博物館経営論	2	2・3のみ	※博物館資料論	2	2・3のみ	※博物館資料保存論	2	2・3・4
※博物館展示論	2	2・3・4	※博物館情報・メディア論	2	2・3・4	※博物館教育論	2	2・3・4
※博物館実習I	2	3のみ	※博物館実習II	2	4			

※学芸員希望者のみ

### 文学部比較藝術学科

他学部・他学科生は3年次以上の学生が履修可

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
比較藝術学特講Ⅰ	2	3・4	比較藝術学特講Ⅱ	2	3・4	比較藝術学特講Ⅲ	2	3・4
美学・藝術思想Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	西洋の宗教と藝術Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	日本・東洋の宗教と藝術Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
伝統デザイン論Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	※博物館実習Ⅰ	2	3のみ	※博物館実習Ⅱ	2	4

※学芸員希望者のみ

## 教育人間科学部教育学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
西洋教育史 I	2	3・4	西洋教育史 II	2	3・4	西洋教育史 III	2	3・4
教育史特殊講義	2	3・4	発達と文化 A	2	3・4	発達と文化 B	2	3・4
教育哲学 A	2	3・4	教育哲学 B	2	3・4	教育学特論 A	2	3・4
教育学特論 B	2	3・4	キャリア教育 B	2	3・4	比較教育学	2	3・4
異文化理解教育	2	3・4	老年学	2	3・4	教育学特論 C	2	3・4
教育学特論 D	2	3・4	臨床心理学概論 I	2	2	臨床心理学概論 II	2	2
小児精神神経学	2	3・4	相談心理学 I	2	3・4	相談心理学 II	2	3・4
特別支援教育	2	3・4	教育学特論 E	2	3・4	教育学特論 F	2	3・4
生涯学習概論 I	2	2	生涯学習概論 II	2	2	高等教育論 A	2	3・4
高等教育論 B	2	3・4	社会教育計画 I	2	3・4	社会教育計画 II	2	3・4
社会教育課題研究※1	4	3・4	高齢化社会と教育	2	3・4	青年期と教育	2	3・4
ジェンダーと教育	2	3・4	青年文化論	2	3・4	ボランティア教育論	2	3・4
地域ネットワーキング論	2	3・4	スポーツ・レクリエーション論	2	3・4	教育学特論 G	2	3・4
教育学特論 H	2	3・4	認知科学概論	2	3・4	学校経営と学校図書館※1	2	2
視聴覚教育メディア論	2	3・4	インターフェース論	2	3・4	知的表現論	2	3・4
教材開発論	2	3・4	学習心理学 I	2	3・4	学習心理学 II	2	3・4
教育学特論 I	2	3・4	教育学特論 J※2	2	3・4	図書館情報学概論※1※2	2	2
図書館システムサービス論※2	2	2	図書館情報文化論※2	2	2	図書館システム経営論※2	2	3・4
情報メディア論 A※2	2	2	情報メディア論 B※2	2	3・4	情報メディア論 C※2	2	3・4
児童サービス論※2	2	3・4	メディア組織法 I※2	2	3・4	メディア組織法 II※2	2	3・4
メディア組織法 III※2	2	3・4	情報サービス論 I※2	2	3・4	情報サービス論 II※2	2	3・4
情報サービス論 III※2	2	3・4	情報技術論※2	2	2・3・4	図書館情報学実習※2	2	4
教育学特論 K※2	2	3・4	教育学特論 L	2	3・4	児童福祉論	2	3・4
小児保健論	2	3・4	教育学特論 M	2	3・4	教育学特論 N	2	3・4
小児栄養学	2	3・4	教育学特論 O	2	3・4	教育学特論 P	2	3・4
教育学特論 Q	2	3・4	教育学特論 R	2	3・4	初等英語概説 A	2	3・4
初等英語概説 B	2	3・4	教育学特論 S	2	3・4	教育学特論 T	2	3・4
キリスト教学校論	2	3・4	聖書の世界(旧約)	2	3・4	聖書の世界(新約)	2	3・4
キリスト教の教理	2	3・4	キリスト教と法思想	2	3・4	宗教と社会	2	3・4
礼拝学	2	3・4	キリスト教メンタルヘルス	2	3・4			

※1 社会教育主事資格取得希望申請者のみ

※2 司書資格取得希望申請者のみ

## 他学部科目一覧表

### 教育人間科学部心理学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
心理統計実習	2	3・4	哲学的認識論	4	3・4	心の哲学	4	3・4
心理学史	2	3・4	学習心理学	4	3・4	発達心理学	4	1・2
生涯発達心理学I	2	2	生涯発達心理学II	2	2	生涯発達論	2	3・4
知覚心理学	2	2	認知心理学	4	3・4	音楽心理学	2	3・4
感情心理学	2	3・4	神経心理学	2	3・4	人格心理学	4	3・4
犯罪心理学	4	3・4	社会心理学	4	3・4	産業心理学	2	3・4
広告心理学	2	3・4	ノンバーバル・コミュニケーションI	2	3・4	ノンバーバル・コミュニケーションII	2	3・4
応用社会心理学特講I	2	3・4	応用社会心理学特講II	2	3・4	応用社会心理学特講III	2	3・4
応用社会心理学特講IV	2	3・4	応用社会心理学特講V	2	3・4	応用社会心理学特講VI	2	3・4
心理学特講A	2	3・4	学校心理学	2	3・4	臨床心理学	4	2
臨床心理学I	2	3・4	臨床心理学II	2	3・4	臨床心理学特講	4	3・4
精神分析学	2	3・4	精神医学	4	3・4	音楽療法	2	3・4
相談心理学	4	3・4	家族心理学	2	3・4	健康心理学	2	3・4
コミュニティ心理学	2	3・4	障害児・者の心理II	2	3・4	障害児・者の教育	2	3・4
障害児・者の福祉	2	3・4	障害児・者の医学	2	3・4	心理面接法	4	3・4
心理療法実習A	2	3・4	応用行動分析	2	3・4	身体医学	2	3・4
身心医学	2	3・4	薬理学	2	3・4	脳生理学	2	3・4
精神衛生	2	3・4	母子保健	2	3・4	成人・高齢者保健	2	3・4
精神保健福祉	2	3・4	保健・医療・福祉・制度論	2	3・4	社会保障制度と関連法規	2	3・4
心理学原書講読A	2	3・4	心理学原書講読B	2	3・4	心理臨床の実践I	2	2・3・4
心理臨床の実践II	2	2・3・4						

## 経済学部

## 経済学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
統計学概論 I	2	1	統計学概論 II	2	1	経済数学入門 I	2	1
経済数学入門 II	2	1	金融論 I	2	2	金融論 II	2	2
経済学史 I	2	2	経済学史 II	2	2	応用ミクロ経済学 I	2	3
応用ミクロ経済学 II	2	3	経済動力学 I	2	2	経済動力学 II	2	2
計量経済学 I	2	2	計量経済学 II	2	2	数理統計 I	2	2
数理統計 II	2	2	経済数学 I	2	2	経済数学 II	2	2
社会政策論 I	2	3	社会政策論 II	2	3	社会保障論 I	2	3
社会保障論 II	2	3	産業論(航空事業 I)	2	3	産業論(航空事業 II)	2	3
産業論(損害保険業)	2	3	産業論(税法)	2	3	産業論(証券ビジネス)	2	3
産業論(知的エンタテイメント産業 I)	2	3	産業論(知的エンタテイメント産業 II)	2	3	労働経済論 I	2	3
労働経済論 II	2	3	産業組織論 I	2	3	産業組織論 II	2	3
ファイナンス論基礎	2	3	ファイナンス論	2	2	日本経済史 I	2	2
日本経済史 II	2	2	欧米経済史 I	2	2	欧米経済史 II	2	2
東洋経済史 I	2	3	東洋経済史 II	2	3	経済思想史 I	2	3
経済思想史 II	2	3	キリスト教社会思想史 I	2	2	キリスト教社会思想史 II	2	2
日本経済論 I	2	2	日本経済論 II	2	2	世界経済論 I	2	3
世界経済論 II	2	3	各国経済論 A I	2	2	各国経済論 A II	2	2
各国経済論 B I	2	2	各国経済論 B II	2	2	交通経済学 I	2	3
交通経済学 II	2	3	農業経済論 I	2	3	農業経済論 II	2	3
環境経済学 I	2	3	環境経済学 II	2	3	憲法 A	2	2
憲法 B	2	2	民法 A	2	3	民法 B	2	3
民法 C	2	3	民法 D	2	3	商法 A(I)	2	3
商法 A(II)	2	3	商法 B	2	3	商法 C	2	3
経済法 A	2	3	経済法 B	2	3	労働法 A	2	3
労働法 B	2	3	経営史 I	2	3	経営史 II	2	3
初級簿記 I	2	1	初級簿記 II	2	1	応用ゲーム理論	2	3
財政学基礎	2	2	行動経済学	2	2	応用マクロ経済学	2	3

## 他学部科目一覧表

### 現代経済デザイン学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
公的規制の経済学	2	3	契約の経済学	2	3	公共政策の経済学	2	3
公共選択論	2	3	政策と評価A	2	3	法と経済学	2	3
都市再生論	2	3	まちづくりと都市計画	2	3	住宅と不動産の経済学	2	3
郊外地域論	2	3	地域人口論	2	3	経済地理	2	2
経済地誌	2	2	地方財政の経済学Ⅰ	2	3	地方財政の経済学Ⅱ	2	3
政策と評価B	2	3	地域経済学Ⅱ	2	3	都市経済学	2	3

### 法学部

履修可能な科目はありません。

## 経営学部

授業科目	単位	配置年次	授業科目	単位	配置年次	授業科目	単位	配置年次
経営データ分析のための基礎解析入門 I	2	1	経営データ分析のための基礎解析入門 II	2	1	経営データ分析のための線形代数入門 I	2	1
経営データ分析のための線形代数入門 II	2	1	商学基礎論 I	2	1	商学基礎論 II	2	1
経営史 A	2	2	経営史 B	2	2	経営管理論 I	2	2
経営管理論 II	2	2	経営組織論 I	2	2	経営組織論 II	2	2
企業情報戦略 I	2	2	企業情報戦略 II	2	2	財務管理論 A	2	2
財務管理論 B	2	2	事業戦略論 I	2	2	事業戦略論 II	2	2
企業分析論	2	2	財務会計論 I	2	2	財務会計論 II	2	2
中級簿記 I	2	2	中級簿記 II	2	2	原価計算論	2	2
マーケティング論 I	2	2	マーケティング論 II	2	2	ファイナンス I	2	2
ファイナンス II	2	2	流通論 I	2	2	流通論 II	2	2
国際貿易論 I	2	2	国際貿易論 II	2	2	国際ビジネス環境論 A	2	2
国際ビジネス環境論 B	2	2	Globalization and Emerging Countries A	2	2	Globalization and Emerging Countries B	2	2
多角的貿易体制概論 A	2	3	多角的貿易体制概論 B	2	3	ベンチャー企業経営論	2	3
サプライチェーンと意思決定法 A	2	2	サプライチェーンと意思決定法 B	2	2	グローバル製品戦略 I	2	2
グローバル製品戦略 II	2	2	証券投資論 I	2	2	証券投資論 II	2	2
意思決定会計論	2	2	国際会計論 I	2	2	国際会計論 II	2	2
制度会計論 A	2	2	制度会計論 B	2	2	戦略管理会計 I	2	2
戦略管理会計 II	2	2	予算管理論	2	2	企業法務 I	2	3
企業法務 II	2	3	コーポレート・ファイナンス I	2	3	コーポレート・ファイナンス II	2	3
リスク・マネジメント論 I	2	3	リスク・マネジメント論 II	2	3	交通論 I	2	3
交通論 II	2	3	Effective Negotiation	2	3	Written Agreements	2	3
Effective Speech	2	3	Academic Presentation	2	3	Career Development (Introduction to Coaching)	2	3
アメリカ文化論 I	2	3	アメリカ文化論 II	2	3	イギリス文化論 I	2	3
イギリス文化論 II	2	3	ユダヤ文化とビジネス I	2	3	ユダヤ文化とビジネス II	2	3
英語圏社会・文化研究 I	2	3	英語圏社会・文化研究 II	2	3	世界の言語文化 I	2	3
世界の言語文化 II	2	3	現代韓国社会事情 I	2	3	現代韓国社会事情 II	2	3
Market and Business Environment	2	3	国際マーケティング	2	3	国際経営論 I	2	3
国際経営論 II	2	3	サプライチェーン・マネジメント A	2	3	サプライチェーン・マネジメント B	2	3
経営戦略論 I	2	3	経営戦略論 II	2	3	経営データ分析応用 I	2	3
経営データ分析応用 II	2	3	事業創造戦略論	2	3	顧客創造戦略論	2	3
人材育成論 I	2	3	人材育成論 II	2	3	人的資源管理論 I	2	3
人的資源管理論 II	2	3	組織心理学 I	2	3	組織心理学 II	2	3
マネジメントサイエンス I	2	3	マネジメントサイエンス II	2	3	人間行動の多面的分析 A	2	3
人間行動の多面的分析 B	2	3	戦略・マネジメント特論 A	2	3	戦略・マネジメント特論 B	2	3
コストマネジメント	2	3	財務コンサルティング論 I	2	3	財務コンサルティング論 II	2	3
会計情報論 I	2	3	会計情報論 II	2	3	会計・ファイナンス特論 A	2	3
会計・ファイナンス特論 B	2	3	企業評価論 I	2	3	企業評価論 II	2	3
実証会計論 I	2	3	実証会計論 II	2	3	財務分析論 I	2	3
財務分析論 II	2	3	監査論 I	2	3	監査論 II	2	3
税務会計論 I	2	3	税務会計論 II	2	3	競争戦略論 I	2	3
競争戦略論 II	2	3	産業労働衛生論	2	3	ヘルスケア経営論	2	3
流通情報システム論 A	2	3	流通情報システム論 B	2	3	マーケティング特論 A	2	3
マーケティング特論 B	2	3	マーケティング特論 C	2	3	マーケティング特論 D	2	3
マーケティング特論 E	2	3	マーケティング特論 F	2	3	広告コミュニケーション	2	3
マーケティング・コミュニケーション	2	3	サービスマーケティング	2	3	ブランド・マネジメント	2	3
消費者行動論	2	3	マーケティング・リサーチ	2	3	マクロ・マーケティング A	2	3
Macromarketing B	2	3	流通政策 A	2	3	流通政策 B	2	3
経済原論 I	2	2	経済原論 II	2	2	民法 A	2	3
民法 B	2	3	民法 C	2	3	民法 D	2	3
商法 A(I)	2	3	商法 A(II)	2	3	商法 B	2	3
商法 C	2	3	経済法 A	2	3	経済法 B	2	3
労働法 A	2	3	労働法 B	2	3	国際法 A	2	3
国際法 B	2	3						

## 他学部科目一覧表

### 国際政治経済学部

履修可能な科目はありません。

### 総合文化政策学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
経済分析(ミクロ)	2	3・4	経済分析(マクロ)	2	3・4	公共社会論	2	3・4
金融概論	2	3・4	行政学概論	2	3・4	国際関係	2	3・4
公共政策論	2	3・4	憲法概論	2	3・4	民法概論	2	3・4
行政法概論	2	3・4	著作権法	2	3・4	国際政治学概論	2	3・4
経済発展論	2	3・4	国際平和論	2	3・4	経済政策概論	2	3・4
公共経済学概論	2	3・4	文化経済学	2	3・4	文化行政法	2	3・4
文化産業概論	2	3・4	観光産業論	2	3・4	消費経済論	2	3・4
日本経済概論	2	3・4	マーケティング概論	2	3・4	会計学	2	3・4
サービスマーケティング概論	2	3・4	消費文化論	2	3・4	経営戦略概論	2	3・4
組織論入門	2	3・4	人的資源管理概論	2	3・4	経営情報論	2	3・4
管理会計概論	2	3・4	経営分析論	2	3・4	非営利会計論	2	3・4
プロジェクトマネジメント論	2	3・4	ビジネスプロセスマネジメント論	2	3・4	プロジェクトファイナンス	2	3・4
マーケティング戦略論	2	3・4	ブランド戦略論	2	3・4	公共経営論	2	3・4
文化財保護法	2	3・4	プロジェクトプロデュース論	2	3・4	世界経済概論	2	3・4
社会調査論I	2	3・4	社会調査論II	2	3・4	統計学	2	3・4
社会調査法I	2	3・4	社会調査法II	2	3・4	社会統計学	2	3・4
社会調査実習	4	3・4	文化人類学概論	2	3・4	日本文化の歴史	2	3・4
異文化間コミュニケーション論	2	3・4	表象文化概論	2	3・4	社会分析学	2	3・4
宗教史	2	3・4	経済史(1)	2	3・4	経済史(2)	2	3・4
社会思想史	2	3・4	経済と文明	2	3・4	比較文明論	2	3・4
地域文化論(1)	2	3・4	地域文化論(2)	2	3・4	地域文化論(3)	2	3・4
地域文化論(4)	2	3・4	宗教文化概論	2	3・4	宗教社会学	2	3・4
比較宗教論	2	3・4	ネットワーク社会と文化	2	3・4	文化遺産論	2	3・4
経営文化論	2	3・4	文化と精神分析	2	3・4	現代経済史	2	3・4
現代日本文化論	2	3・4	近代哲学史	2	3・4	論理学	2	3・4
公共哲学概論	2	3・4	認識論	2	3・4	存在論	2	3・4
倫理学入門	2	3・4	象徴記号論	2	3・4	情報環境論(1)	2	3・4
情報環境論(2)	2	3・4	メディアリテラシー	2	3・4	宗教哲学	2	3・4
社会倫理	2	3・4	日本思想史概論	2	3・4	現代哲学	2	3・4
現代思潮	2	3・4	現代の神学	2	3・4	認知哲学	2	3・4
環境美学	2	3・4	芸術哲学	2	3・4	情報工学	2	3・4

## 理工学部

授業科目	単位	配置年次	授業科目	単位	配置年次	授業科目	単位	配置年次
現代物理学概論	2	2・3・4	一般電気工学	2	2・3・4	一般機械工学	2	2・3・4
経営システム工学特別講座	2	2・3・4	情報と社会	2	2・3・4			

## 社会情報学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
情報化社会と法	2	2・3・4	デリバティブズ	2	2・3・4	経済解析	2	2・3・4
現代の世界と日本	2	2・3・4	グローバルビジネス	2	3・4	文化心理学	2	2・3・4
合理的思考と社会行動	2	2・3・4	広報論	2	2・3・4	情報政策	2	2・3・4
※地域スポーツ演習	2	2・3・4	※生涯スポーツ演習	2	2・3・4	※健康スポーツキャリア演習A	2	2・3・4
※健康スポーツキャリア演習B	2	2・3・4	※スポーツビジネスキャリア演習A	2	2・3・4	※スポーツビジネスキャリア演習B	2	2・3・4
※コミュニティサービス	2	2・3・4	※コミュニケーションデザイン実践	2	2・3・4	※ワークショップデザイン実践	2	2・3・4
※スポーツキャリア基礎A	1	2・3・4	※スポーツキャリア基礎B	1	2・3・4	※スポーツ健康科学基礎	1	2・3・4
※スポーツ傷害学基礎	1	2・3・4	※健康スポーツ統計学基礎	1	2・3・4	※スポーツ倫理学基礎	1	2・3・4

※体育会所属学生、または競技スポーツにおいて一定基準以上の経験を有し、特別に許可された学生のみ履修可

## V. 授業について

### 1. 授業

#### 授業時間

授業時間は次のとおりです。

第1時限	9:00~10:30
礼拝	10:30~11:00
第2時限	11:00~12:30
昼休み	12:30~13:20
第3時限	13:20~14:50
第4時限	15:05~16:35
第5時限	16:50~18:20
第6時限	18:30~20:00
第7時限	20:10~21:40

夕礼拝（火曜日のみ）

18:00~18:30

授業は原則5時限で実施します。しかし、科目配置の都合により6時限目以降にも配置することがあります。

また、特別な行事のときに授業時間が変更となることがあります。その場合は「学生ポータル」で伝達します。

#### 授業教室

授業教室については、「学生ポータル」上の『授業時間割表』に掲載されています。授業教室が変更になる場合は、随時「学生ポータル」で伝達しますので、毎日必ず確認してください。

#### 休講

授業が休講になる場合は、「学生ポータル」で伝達します。

休講情報がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が来ず、連絡もない場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に問い合わせ、指示を受けてください（学生共通細則第7条参照）。

#### 補講

休講となった授業に対し、補講を行う場合があります。補講は、学事暦に記載されている期間および授業期間中の主に水曜・土曜日に実施されます。詳細は「学生ポータル」で伝達しますので、必ず確認してください。また、上記指定日以外にも補講を行う場合もあります。担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表しますので、随時確認してください。

#### 授業の欠席について

本学では、特定の理由による欠席を認める「公欠制度」は設けておりません。ケガ・病気・忌引きなどで授業を欠席した場合は、次回の授業時に直接担当教員に申し出て、指示を受けてください。なお、長期にわたる欠席の場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に相談してください。

### 2. 大学からの伝達

本学では、大学から学生のみなさんへの通知や連絡は、主に「学生ポータル」によって行います。ただし、「掲示板」のものもあります。

また、利用方法の詳細については、「学生ポータル」上の「ヘルプ」より『学生ポータル利用案内』を参照してください。

### 3. 緊急時の 「授業の取り扱い」 および「伝達手段」 について

「掲示板」の設置場所については次のとおりです。

青山キャンパス	8号館と9号館の間（1階）
相模原キャンパス	E棟とF棟の間（外階段下通路内）

「学生ポータル」「掲示板」では、授業・試験など学生生活に直接関係のある事項が随時伝達されています。情報を確認しなかったことにより、後になって不利益を被ることのないよう、十分注意してください。また、電話による問い合わせには一切応じられませんので、質問などがある場合は直接窓口に来室してください。

事故、災害などにより通常利用している交通機関の運行が停止した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

#### 1. 通常利用している交通機関運休時における対応

- (1) 代替交通機関を利用して登校が可能と判断できた場合には、危険な状況でない限り、極力、登校するよう努めてください。
- (2) 代替交通機関の利用ができず登校できなかった場合には、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に用意されている「交通機関不通による授業欠席届」に、交通機関などが発行した遅延証明書、事故証明書などを添えて授業担当者に提出して欠席分の学習補填の指示を受けてください。

#### 2. 台風の接近時などの対応

台風の接近などによる被害が予想される場合には、休講などの特別措置がとられることがあります。

#### 3. 大規模地震の発生が予想されるときの対応

- (1) 大規模地震対策特別措置法による「地震防災対策強化地域判定会」の招集が報道された時点での休校措置がとられます。
- (2) 警戒宣言が解除され、または「判定会」が解散されたときは、休校を解き、平常授業に戻ります。

#### 緊急時の情報提供

テレドーム 0180-993171（青山学院大学用番号）

Web <http://www.aoyama.ac.jp>

（緊急の情報がない場合、テレドームは呼び出し音のみになります）

ただしこのサービスについては、利用可能な電話と、利用できない電話があります。

#### 利用可能な電話

- ① 一般電話
- ② 携帯電話…NTT docomo、au、SoftBank

#### 利用できない電話

携帯電話…NTT docomo を除くプリペイド式携帯、PHS、  
列車公衆電話、「050」から始まるIP電話、NTTの「ひかり電話」、  
一部のケーブルテレビ電話、海外からの国際電話

緊急時には、原則として「学生ポータル」では情報提供されません。

#### 4. 新型インフルエンザに対する本学の対応について

新型インフルエンザは、ほとんどの人が免疫を獲得していないため、世界的な大流行（パンデミック）となり、大きな健康被害とそれに伴う社会的影響をもたらすことが懸念されています。また、昨今その種類も増加傾向にあり、学校における新たな危機管理項目として位置づけられています。

青山学院としては、国内における発生が認められた場合は、政府の対応・方針に準ずると共に、幼稚園から大学までの完全休校（休校の期間は1か月以上の長期に渡る可能性があります）も視野に入れた対応を決定の上、周知いたします。

休校の開始や解除の周知につきましては、大学ホームページ（<http://www.aoyama.ac.jp>）や学内一斉配信メール（学生ポータル等）、緊急連絡網、文書等でお知らせいたします。なお、各自におかれましても、新型インフルエンザに関する情報に注意し、政府の発表するフェーズ（警戒段階）によっては、登校を控えるなど感染予防に努めるようにしてください。

新型インフルエンザにより休校となった場合は、テレドーム（前ページ参照）で確認することができます。

# VI. 試験・レポートについて

授業科目の履修状況を評価し単位を認定するため、試験が行われます。試験は、筆記のほかに、科目によっては、論文、レポート、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法で行われることもあります。

試験は、受験資格のある学生のみ受験できます。

受験資格は、以下のとおりです。

- ① 受験する授業科目を履修登録していること
- ② 学費を納入済みであること

なお、学期を通じ欠席の多い学生は、その科目の受験資格を失うことがあります（学生共通細則第7条参照）。

## 1. 試験の種別

### 定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を定期試験といいます。

試験時間割は、試験開始日の約2週間前に「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。試験実施教室や時間割は通常授業時と異なります。

### 平常試験

定期試験期間以外の、平常の授業時間に行う試験を平常試験といいます。この場合、担当者によって実施日その他詳細が決定されます。情報は授業教室・course power等担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

### レポート

レポートは、提出先によって2種類あります。

#### 【教務提出レポート】

おおむね定期試験の前後に受付が行われます。詳細は「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

テーマ、枚数、提出期限などを確認し、必ず指定された期間（時間）内に提出してください。指定された期間内であれば、当該授業科目開講キャンパスに限らず、どちらのキャンパスでも受付けます。

提出後の内容変更および指定された期間以外の提出は認めません。

このレポートを提出するときは、以下の点に注意してください。

- ① 用紙は指定されたものを使用してください。
- ② 必ず大学所定のレポート提出票を貼付してください。
- ③ レポート提出票には、整理番号その他、記入事項のすべてを「学生ポータル」で確認の上、ボールペンで記入してください。鉛筆書きは受け付けません。
- ④ 受付窓口に持参する際は、提出票記入・ホチキス留めなどをすべて完了し、作成が完了した状態にしておいてください。受付窓口での提出票記入・ホチキス留めはできません。
- ⑤ 提出した際に受領印の押印された「レポート提出票（学生控）」を受け取り、成績が発表されるまで各自保管しておいてください。後日、提示を求められる場合があります。

#### 【担当者提出レポート】

情報は授業教室・course power等担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。テーマ、用紙、枚数、提出期限、提出方法など、すべて担当者の指示に従ってください。

提出先として学務課あるいは学務部教務課設置の提出ボックスまたは青山スタンダードレポート提出コーナーを指定される場合がありますが、このレポートは担当者提出レポートとして扱います。

## 追試験

定期試験に限り、病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。受験資格は厳密に定められており、自己の不注意によって受験できなかった場合、および、公的な証明書のない場合は、追試験を受けることはできません。

資格および申請方法などについては後述の「3. 追試験」を参照してください。なお、出席日数不足など、担当者の判断によって追試験の受験が認められない場合があります。

定期試験期間中は、試験の有無にかかわらず、定期試験期間最終日まで予定（旅行など）を入れないでください。

また、やむを得ず追試験の申請をすることも想定し、追試験実施日（学生ポータルで発表）にも留意してください。

## 2. 定期試験の受験

### 定期試験時間

定期試験時間割は以下のとおりです。授業時間割とは異なるので注意してください。

定期試験科目配置上、5時限で実施できないことが起きた場合のみ6・7時限目にも配置します。

試験時間は原則として60分です（理学部・社会情報学部専門科目のみ最長85分の場合があります）。

第1時限	9：30～10：30
第2時限	11：10～12：10
第3時限	13：10～14：10
第4時限	14：50～15：50
第5時限	16：30～17：30
第6時限	18：20～19：20
第7時限	19：40～20：40

### 受験上の注意

受験上の注意は以下の通りです。あらかじめよく読んでおいてください。

試験教室で配布される受験票は、試験を受けた証拠になりますので学年・クラス番号等、正確に記入してください。答案用紙の学年・クラス番号を正しく記入しない場合、担当教員の成績報告に支障をきたすことがあります。また指定されたクラス・試験教室で必ず受験してください。

#### 受験上の注意

1. 監督者の指示に従うこと。
2. 机の空いている限り、一机一名で着席すること。
3. 机上等に書き込みがある場合は、開始前に申し出ること。
4. 学生証はケースから出し、通路側の机上に置くこと。※注
5. 以下の行為は、不正行為に該当するので充分留意すること。
  - ① 受験資格のない者の受験（代人も含む）。
  - ② 答案の交換及び他人の答案を盗み見ること。
  - ③ カンニングペーパー（縮小コピー）等の準備および使用。
  - ④ 答案用紙を提出せずに試験場から退室すること。

- ⑤ 机の中にノート、コピー、文献等を開いたまま置くこと。
- ⑥ 所持品やかばん、透明ファイルケース等の中身が見える形のまま、身の回りに置くこと。
- 6. 机上には、許可された文献類および筆記用具以外は置かないこと。  
なお、筆箱・ペンケース等も置いてはならない。
- 7. 携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器類の電源を切り、かばん等に入れておくこと。なお、これらの電子機器類は時計として使用できない。
- 8. 試験終了前に退室する場合は、他の受験者の妨げにならないよう留意すること。
- 9. 不正行為は恥すべき行為であり大学として厳重に対処する。

**※注 学生証を提示しない学生は受験できません。**

- ・試験当日学生証を忘れた場合、相模原キャンパスでは学務課、青山キャンパスでは学務部教務課で学生カードを受け取り受験してください。学生カードの使用については以下の点に注意してください。
  - a. 学生カードは、試験受験以外には一切利用できません。
  - b. 学生カードは発行日に限り記載者本人のみ有効です。使用後は自己の責任において適切に処分してください。
- ・試験開始後20分以上の遅刻者は受験できません。また試験開始後30分を経過するまで退室できません。

## 不正行為

不正行為を行った学生は、以下に示す『試験における不正行為者処分規則』が適用され、単位を修得することができません。科目によっては4年間で卒業することが不可能になります。

青山学院規則集『試験における不正行為者処分規則』より抜粋

**第3条** 不正行為者の処分内容は、学則に基づく懲戒処分（訓告、停学、退学）とするほか不正行為を行った授業科目、当該授業科目を含む数科目または全授業科目の履修届を無効とする。

**第4条** 不正行為者の氏名および処分は学内に掲示し、本人および保証人へ通知する。

不正行為とは、『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条に定められた、以下の行為をいいます。

- ① 代人として受験することまたは代人に受験させること。
- ② 答案を交換すること。
- ③ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）の用意またはそれらを使用すること。
- ④ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）を廻し見すること。
- ⑤ 使用が許可されていない文献等を使用すること。
- ⑥ 使用が許可されている文献等を貸借すること。
- ⑦ 所持品、身体、机、壁等に解答およびそれに類するものを書き込むこと。
- ⑧ 答案を写させること、または写しとすること。
- ⑨ 他人の答案を盗み見ること。
- ⑩ 声、動作等で解答を伝達すること、または伝達を受けること。
- ⑪ 受験資格のない者が受験すること。
- ⑫ 他人の学生証を使用して受験すること。
- ⑬ 偽名または故意により無記名答案を提出すること。
- ⑭ 答案を提出しないこと。
- ⑮ 監督者の指示や注意に従わないこと。
- ⑯ その他上記各号に類すると認められる行為。

### 3. 追試験

#### 申請資格

定期試験を病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかつた学生のみ申請することができます。

以下の場合には追試験の対象とはなりません。

- ① 自己の不注意（時間割の見間違い・変更情報の見落としなど）によって受験できなかつた場合
- ② 公共交通機関以外を利用した場合の、天候や交通事故などによる道路の渋滞、車両の故障を理由とする遅刻・欠席の場合
- ③ 平常試験（定期試験以外の試験を指す）の場合
- ④ 定期試験を受験した場合

#### 申請方法

申請の日程、追試験日程については、定期試験前に「学生ポータル」で発表します。

追試験の受験を希望する学生は、**直接、授業科目の開講キャンパスの教務窓口**（巻末参照）で、**定められた期間に申請してください**。当該授業科目開講キャンパス以外の教務窓口では申請できません。

申請時には、当該試験の受験が不可能であったことを証明する公的な書類を持参してください。公的な書類は、**学生氏名、定期試験を受験できなかつた日時、理由、証明者名の記載および証明者印のあるもの**に限ります。コピーは不可です。「追試験願」用紙を交付しますので、その場で記入し、持参した書類とともに提出してください。なお、受験料は無料です。

欠席理由と、それを示す証明書は次のとおりです。

理由	証明書
病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）
忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※ 法事は忌引に含めない	死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの） および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）
就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）
災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書
交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず教務窓口で指示を受けること）
教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務課にて発行）
科目の時限重複	定期試験実施前に教務窓口で指示を受けること

上記以外の理由または、公的な証明書が無い場合については、事前に**「追試験受験資格審査」**を受けてください。審査で認められた場合のみ申請することができます。

#### 追試験時間・採点

原則として60分で実施し、答案は100点満点で採点されます。

## VII. 成績評価について

### 成績評価

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法）によって評価されます。

本学の成績は100点法によって評価されます。60点以上が合格とされ、所定の単位が与えられます。

成績証明書および成績通知書にはAA、A、B、Cの表記が用いられます。ただし、「情報スキルⅠ」、指定の海外研修等については、所定の単位が与えられた場合、成績証明書には「RR」、成績通知書には「合格」と表示されます。

実点数範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100～90	AA	AA
89～80	A	A
79～70	B	B
69～60	C	C
59以下または不合格	XX	表示せず
欠席	X	表示せず
「情報スキルⅠ」、海外研修等による単位修得	合格	RR

### G.P.A.

G.P.A. (Grade Point Average) とは、学生の履修登録科目の1単位あたりの評点平均値を指します。これは、欧米で広く用いられている世界標準的な成績評価方法で、本学では給付奨学金や学業奨励賞の候補者選出、学位授与式の総代選出、本学大学院進学などの際に活用されています。

履修した科目には、A、B、C、XXなどの成績が与えられます。これらの評価を数値化して1単位ごとの平均を算出したものがG.P.A.です。

本学では、各評価に与えられる評点は次のとおりです。

#### G.P.A. 算出対象評価

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX(不合格)	0.0
X (欠席)	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめて G.P.A. を算出します。

$$G.P.A. = \frac{(AA \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1)}{(AA \text{ の単位数} + A \text{ の単位数} + B \text{ の単位数} + C \text{ の単位数} + XX \text{ の単位数} + X \text{ の単位数})}$$

※理工・社会情報学部は、教職課程科目を G.P.A. 算出の対象外とします。

※「情報スキルⅠ」、指定の海外研修等は、G.P.A. 算出の対象外とします。

### 成績通知

学生の成績評価は、3月上旬および9月中旬に学生ポータルメニュー「成績通知書」にてお知らせします。学外PCから閲覧する場合は、あらかじめ学内でSecure Matrix パスワードの登録を済ませておく必要があります。（詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。）成績通知書は各自で印刷し、修得した科目との評価を確認してください。

## 成績調査

成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができます。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではありません。成績に疑問を持つ**明確な根拠**がある場合にのみ申請してください。

大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ所属キャンパスの教務窓口（巻末参考）へ申し出てください。調査期間は、「学生ポータル」でお知らせします。

電話での問い合わせ、期間外の申し出には一切応じません。

## VIII. 進級および卒業について

<b>進 級</b>	進級については、所属する学部で条件が異なるので、「IV. 学部履修要項」の各学部、学科の <b>進級条件</b> の項を参照してください。
<b>卒 業</b>	<p>(1) 本学に4年（8期）以上在学（休学期間を除く）し、なおかつ4年次に1年（2期）以上の在学が必要です。その上で、各学部で定められた卒業に必要な単位を修得した者に卒業が認められ、学士の学位が授与されます。なお、休学期間中に卒業することはできません。</p> <p>※卒業の時期は4年次3月とし、卒業発表は3月上旬に行います。卒業の可否は必ず本人が確認してください。電話による問い合わせには一切応じておりません。</p>
<b>9月卒業</b>	<p>上記の卒業の条件を満たした場合、願い出によって4年次の9月に卒業できる制度があります。</p> <p>(1) 希望者は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）で相談し、「9月卒業希望届」を定められた期間に提出してください。</p> <p>(2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。</p> <p>(3) 学費については、本学の庶務部経理課に問い合わせてください。</p>
<b>卒業延期制度</b>	<p>4年次に在学する学生が卒業要件を満たし、具体的な勉学継続計画、国家試験受験等明確な理由、目的を有したうえで、在学期間を延長して学修継続を希望する場合、卒業の延期を認めて学修継続の機会を与える制度です。</p> <p>(1) 希望者は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）で相談し、「卒業延期許可願」、「学修計画書」、「誓約書・保証書」を定められた期間に提出してください。</p> <p>(2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。</p> <p>(3) 学費については、本学の庶務部経理課に問い合わせてください。</p>

## IX. 学籍について

		内 容	取扱・問い合わせ窓口												
修業年限	本学の教育課程を修了するために必要な最低修業年限は、4年です。		学則第35条参照												
在学年限	① 本学に在学できる期間は、休学期間を除き8年です。 ② 2年次編入学生、2年次転学部・転学科生の在学年限は6年です。 ③ 3年次編入学生、3年次転学部・転学科生の在学年限は4年です。 ④ 再入学者の在学年限は、退学以前を加えて8年です。 ⑤ 編入学または転学部・転学科をした再入学者の在学年限は、退学以前を加え、編入学または転学部・転学科学生の在学年限を越えることはできません。		学則第36条参照												
休学期間	① 休学期間は、通年（1年間）、前期、後期の3種類があり、1年または1学期ごとに更新しなければなりません。 ② 休学期間は連続2年までとしますが、特にやむを得ない場合は、審議をしたうえで、連続して3年まで認めることがあります。 ③ 休学期間は通算して3年を超えることはできません。 ④ 休学期間は在学期間に算入しません。		学則第29・36条参照												
休学をするには	病気その他やむを得ない理由で休学しようとする学生は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「休学願」（大学所定用紙）（保証人連署）の提出 ② 学生証の提示 ③ 休学費の納入 ④ 「理由書（書式は任意）」休学期間が通算であっても連続であっても、2年を超えてさらに休学を願い出る場合のみ提出		(手続き) ⇒ 所属キャンパスの教務窓口（卷末参照） 学則第28条参照  (休学費) ⇒ 学費・奨学金課 (青山キャンパス) ⇒ 学生生活課 (相模原キャンパス) 学則 別記学費納付に関する取扱い 8 参照												
休学願の提出期限	「休学願」の提出期限は次のとおりです。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>休学期間</th> <th>提出期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年休学</td> <td>4月1日～翌年3月31日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>前期休学</td> <td>4月1日～9月30日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>後期休学</td> <td>10月1日～翌年3月31日</td> <td>12月末日</td> </tr> </tbody> </table>			休学期間	提出期限	通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日	前期休学	4月1日～9月30日	6月末日	後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日	⇒ 所属キャンパスの教務窓口（卷末参照）
	休学期間	提出期限													
通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日													
前期休学	4月1日～9月30日	6月末日													
後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日													
復学をするには	復学者が復学を希望する場合、大学所定の「復学願」を提出し、教授会の承認を経て復学することができます。休学期間満了の約2ヶ月前に、学務部教務課（相模原キャンパスは学務課）から次期の復学・休学の継続などについての問い合わせをします。なお、復学が承認された場合の年次は、休学の時期や期間によって異なります。詳細は所属キャンパスの教務窓口（卷末参照）に問い合わせてください。		⇒ 所属キャンパスの教務窓口（卷末参照）  学則第30条参照												

		内 容	取扱・問い合わせ窓口
退 学	退 学 の 期 日	退学の期日は、学費の納付期間によって異なります。前期分まで納付している場合は9月30日付、後期分まで納付している場合は3月31日付となります。	学則 別記学費納付に関する取扱い10参照
	退 学 を す る に は	病気その他やむを得ない事情で退学を希望する場合は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「退学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提出 ③ 退学期日を含む学期までの学費の納入	⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)  学則第32条参照
再 入 学		退学した後に再入学を願い出た場合、事情を審査のうえ相当年次に再入学を許可することがあります。願い出をするためには以下のようない条件があります。 ① 再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内とし、「再入学願」は1月中旬～1月末日(要問い合わせ)の間に学務担当窓口に提出してください。 ② 再入学できる時期は、学年の初めとします。	⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)  学則第27条参照
二 重 学 籍	二の 重 禁 止 学 籍	本学学生は、他大学および本学他学部または他学科と併せて在学することはできません。	学則第27条の2参照
除 箐		学費を期限内に納入しない、履修登録をしない、などの場合は修学の意思がないものとして除籍され、本学学生としての身分を失うことになります。なお、除籍者に対しては、以後、在学中の修得単位・成績の証明などは一切行いません。また、再入学の資格も失うことになります。	学則第34条参照
転 学 部 ・ 転 学 科	転 学 部 と は	所属学部から文学部、教育人間科学部、法学部、国際政治経済学部、社会情報学部へ学部を移ることです。転学部を願い出た場合には、選考の上、当該学部への転学部を許可することができます。許可された場合、転学部届の提出が必要となります。	⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)  学則第26条参照
	転 学 科 と は	同一学部内で学科を移ることです。文学部、教育人間科学部、国際政治経済学部の学生で転学科を願い出た場合には、選考の上、当該学科への転学科を許可することができます。許可された場合、転学科届の提出が必要となります。	(詳細については、本学Webサイトに7月以降掲出予定の「試験要項」を確認してください。)

## X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について

### 1. 本学で取得可能な教育職員免許状

(取得可能な免許状の種類・教科（学部・学科別）)

本学で取得可能な免許状の種類・教科は次のとおりです。

(2016年度入学者)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類 ・ 教 科
文学部	英米文学科	中 学 校教諭 1種免許状（英語） 高等学校教諭 1種免許状（英語）
	フランス文学科	中 学 校教諭 1種免許状（フランス語） 高等学校教諭 1種免許状（フランス語）
	日本文学科	中 学 校教諭 1種免許状（国語） 高等学校教諭 1種免許状（国語）
	史学科	中 学 校教諭 1種免許状（社会） 高等学校教諭 1種免許状（地理歴史）
教育人間科学部	教育学科	幼 稚 園教諭 1種免許状 小 学 校教諭 1種免許状 中 学 校教諭 1種免許状（国語・社会・英語） 高等学校教諭 1種免許状 (国語・地理歴史・公民・英語)
理工学部	物理・数理学科	中 学 校教諭 1種免許状（理科・数学） 高等学校教諭 1種免許状（理科・数学）
	化学・生命科学科	中 学 校教諭 1種免許状（理科） 高等学校教諭 1種免許状（理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭 1種免許状（工業）
	機械創造工学科	高等学校教諭 1種免許状（工業）
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭 1種免許状（情報）
社会情報学部	社会情報学科	中 学 校教諭 1種免許状（数学） 高等学校教諭 1種免許状（数学・情報）

### 2. 教員免許状の取得希望申請について

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に Web の履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。申請を行わなければ履修できない科目がありますので注意してください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、教職履修継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

### 3. 教職課程料の納付について

教員免許状の申請登録（Web）をすると、申請した年度ごとに後期学費納付時に教職課程料を納付することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録（Web）によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しあは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納付された教職課程料は、いかなる理由があつても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、教職課程料の納付時期は9月となります。

## 4. 教職課程履修について

### 履修上の注意

教職課程の履修は、1年次の年度初頭に開催される**教職課程オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。また、履修方法・科目名称の変更などについては、年度初頭に開催される2年次生対象**教職課程オリエンテーション**と3年次生および4年次生対象**教育実習・教職実践演習説明会**で資料を配付しますので、必ず確認してください。

教職課程関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**などの詳細については、**年度初頭行事一覧**（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

**オリエンテーション・説明会**に欠席したり、指定期間内に**介護等体験登録**、**教育実習Ⅱ・教職実践演習予備登録**、**教員免許状大学一括申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までに教員免許状を取得できない事態に陥ることがありますので、遗漏のないよう自己管理してください。

### 履修順序のある科目

教員免許状取得のための科目には、次ページ以下のとおり**「履修順序」**が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の該当する学部・学科別の免許教科の項を併せて参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な教員免許状の校種・教科は、「**1. 本学で取得可能な教育職員免許状**」の表のとおりです。

(教員免許状取得に必要な科目的履修順序)

(2016年度入学者適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を3教科以上	幼児教育実習Ⅰ	幼児教育実習Ⅱ 教職実践演習(幼)

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を4教科以上	初等教育実習Ⅰ	初等教育実習Ⅱ 教職実践演習(小)

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育原理A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習Ⅰ 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法(注1) 又は 英語科教育法特論(注1) フランス語科教育法 (フランス語教授法Ⅰ(注2)) 又は フランス語科教育法特論 理科教育法Ⅰ及び理科教育法Ⅱ 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習Ⅱ A 中等教育実習Ⅱ B 教職実践演習(中・高)

(注1) 英米文学科の学生は、第1段階の科目を修得していなくても「英語科教育法」「英語科教育法特論」を履修することができます。

(注2) フランス文学科の学生は、第1段階の科目を修得していなくても「フランス語教授法Ⅰ」を履修することができます。

## 5. 教職課程科目

### 配置表

文学部  
教育人間科学部  
理工学部  
社会情報学部

(2016年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。

	科目名	単位数	履修年次	
	教職論	2	2	
	教育原理A	2	1	
教	教育心理	4	1	
	教育原理B	2	1	
職	教育課程編成法（中等）	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
課	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
程	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
科	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
目	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	理科教育法I	2	3	
	理科教育法II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道徳教育指導法（中等）	2	3・4	
	特別活動論（中等）	2	3・4	
	教育方法の研究（中等）	2	3・4	
	生徒・進路指導論（中等）	2	3・4	
	教育相談（中等）	2	3・4	
	幼児教育実習I	1	3	
	幼児教育実習II	4	4	
	初等教育実習I	1	3	
	初等教育実習II	4	4	
	中等教育実習I	1	3	
	中等教育実習II A	2	4	
	中等教育実習II B	2	4	
	教職実践演習（幼）	2	4	
	教職実践演習（小）	2	4	
	教職実践演習（中・高）	2	4	

## 6. 本学で取得可能な資格 (取得可能な資格の種類 (学部・学科別))

本学で取得可能な資格の種類は次のとおりです。

(2016年度入学者)

学 部	学 科	資 格 の 種 類
文学部	英米文学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	フランス文学科	
	日本文学科	
	史学科	
	比較芸術学科	
教育人間科学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
経済学部	経済学科	司書・社会教育主事・学芸員
	現代経済デザイン学科	
法学部	法学科	司書・社会教育主事・学芸員
経営学部	経営学科	司書・社会教育主事・学芸員
	マーケティング学科	
国際政治経済学部	国際政治学科	司書・社会教育主事・学芸員
	国際経済学科	
	国際コミュニケーション学科	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	司書・社会教育主事・学芸員
理工学部	物理・数理学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	化学・生命科学科	
	電気電子工学科	
	機械創造工学科	
	経営システム工学科	
	情報テクノロジー学科	
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
地球社会共生学部	地球社会共生学科	司書・社会教育主事・学芸員

## 7. 各種資格の取得希望申請について

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に、Web の履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。申請を行わなければ履修できない科目がありますので注意してください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、各種資格履修継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

## 8. 資格課程料の納付方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の申請登録（Web）をすると、それぞれの資格について資格課程料を納付することになります。納付時期は3年次または4年次で最初に申請登録をした年度の後期学費納付時となり、在学中1回の納付となります。たとえ必要科目的履修登録をしなくても、各種資格の申請登録（Web）によって資格課程料が後期学費に加算されますので、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納付された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※各種資格の取得を希望する者は、毎年度、各種資格の申請登録（Web）を行ってください。  
※学費を前期納付時に一括納付した者については、資格課程料の納付時期は9月となります。

## 9. 各種資格取得に必要な科目の履修について 履修上の注意

各種資格取得に必要な科目の履修は、1年次の年度初頭に開催される**各種資格オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『教職課程履修の手引』に従ってください。

また、履修方法・科目名称などの変更があった場合には、年度初頭に開催される2年次生対象の司書教諭・司書・社会教育主事オリエンテーション、学芸員オリエンテーションなどで資料を配付しますので、必ず確認してください。

各種資格関係のオリエンテーション・説明会および手続等の詳細については、**年度初頭行事一覧**（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間に博物館実習予備登録・各種資格申請などの手続を行わなかった場合、卒業時までに資格の取得ができない事態に陥ることがありますので、遗漏のないよう自己管理してください（但し、司書教諭資格の取得時期については、『教職課程履修の手引』を参照してください）。

### 履修順序のある科目

司書および学芸員資格取得のための科目には、「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、下表および『教職課程履修の手引』の司書および学芸員の項を参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な資格の種類は、「**6. 本学で取得可能な資格**」の表のとおりです。

#### （司書資格取得に必要な科目の履修順序）

第1段階	第2段階
2年次以降履修できる (2年次配置科目)	第1段階の科目に合格した翌年度以降にのみ履修できる (3・4年次配置科目)
図書館情報学概論	情報サービス論Ⅱ 情報サービス論Ⅲ メディア組織法Ⅱ メディア組織法Ⅲ

#### （学芸員資格取得に必要な科目の履修順序）

第1段階	第2段階
2・3年次のみ履修できる (2年次配置科目)	3年次のみ履修できる (3年次配置科目) 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論
	第1段階を合格した者のみ履修できる (4年次配置科目) 博物館実習Ⅰ

- 「博物館実習Ⅰ」は3年次生しか履修できません。
- 「博物館実習Ⅰ」の履修については、2年次後期の予備登録が必要です。受講者を制限する必要が生じた場合は、3年次年度初頭に選抜試験を実施します。
- 「博物館実習Ⅰ」予備登録の日程については、教職課程掲示板で確認してください。

## 履修順序のある科目の 登録方法

- ① 「博物館実習Ⅰ」（3年次配置科目）は、事前登録科目です。2年次後期に博物館実習予備登録をし、必要に応じて実施される3年次年度初頭の選抜試験に合格することにより事前登録されるので、履修登録期間中に個人が登録する必要はありません。履修登録期間中に、Webの履修登録画面で登録内容を確認してください。
- ② 「博物館実習Ⅱ」（4年次配置科目）は、Webの履修登録画面から各自が登録をしてください。履修順序の条件を満たしていない場合は、登録することができません。

## XI. 大学院について

本学には、より高度な専門知識と技術の修得について高い評価をうけている「大学院」各研究科・専攻に加え、時代と社会の要請に応える高度専門職業人養成の「専門職大学院」があります。

学部から本学「大学院」「専門職大学院」へ進学を希望する学生は、詳細を下記に問い合わせてください。

### 《問い合わせ先》

#### 大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
文学研究科	
教育人間科学研究科	
経済学研究科	教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2階
法学研究科	
経営学研究科	
国際政治経済学研究科	
総合文化政策学研究科	
理工学研究科	学務課
社会情報学研究科	所在：相模原キャンパス B棟 1階

#### 専門職大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
国際マネジメント研究科（ビジネススクール）	
法務研究科（ロースクール）	専門職大学院教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2階
会計プロフェッショナル研究科（アカウンティングスクール）	

\*青山学院大学ホームページ (<http://www.aoyama.ac.jp>) にも、情報が載っていますので、参照してください。

\*上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」で伝達いたします。

## 大学院 入試情報一覧（2016年度実績）

		学内進学者選抜	内部推薦	外部推薦	一般(秋)	一般(春)	大学院科目特別履修資格試験※1
文学研究科	英米文学専攻*1				○	○	○
	フランス文学・語学専攻*1				○	○	○
	日本文学・日本語専攻*1				○	○	
	史学専攻*1				○	○	○
	比較芸術学専攻*1				○	○	○
教育人間科学研究科	教育学専攻*1				○	○	
	心理学専攻*1 心理学コース 臨床心理学コース	○					○
	経済学専攻*1	○			○	○	○
経済学研究科	公共・地域マネジメント専攻*1	○			○	○	○
	私法専攻*1		○	○	○	○	○
	公法専攻*1						○
法学研究科	ビジネス法務専攻*2				○ (実施時期は要問い合わせ)		○
	経営学専攻*1	○			○	○	○
	国際政治経済学専攻*2				○	○	
国際政治経済学研究科	国際経済学専攻*2	○			○	○	○
	国際コミュニケーション専攻*2						
	総合文化政策学専攻*3	○			○	○	
理工学研究科	理工学専攻*1 基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	○			○ (実施時期は要問い合わせ)		
	社会情報学専攻*1 社会情報学コース ヒューマンイノベーションコース	○			○ (実施時期は要問い合わせ)		
社会情報学研究科							○

## 専門職大学院 入試情報一覧（2016年度実績）

		自己推薦・指定学部推薦入試				特別入試	一般入試					大学院科目特別履修資格試験※1
		7月	10月	12月	2月		7月	8月	10月	11月	1月	
国際マネジメント研究科	国際マネジメントサイエンス専攻*3							○			○	
	国際マネジメント専攻*4							○		○	○	
法務研究科	法務専攻*4					○	○		○	○		○
会計プロフェッショナル研究科	会計プロフェッショナル専攻*4	○	○	○	○			○				○

\* 1 博士前期課程

※ 1 「大学院科目特別履修資格試験」に合格した者は、学部4年次で大学院科目を履修できます。

\* 2 修士課程

経済学研究科・経営学研究科では「先取り科目履修方式」もあります。

\* 3 博士課程（5年一貫制）

\* 4 専門職学位課程

## 教務窓口について

キャンパス	担当窓口	事務取扱時間	
青山キャンパス	学務部 教務課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～19:00	(土) 9:00～11:30 14:00～19:00
	学務部 教職課程課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月・水・木) 9:00～11:30 12:30～17:00 (火・金) 9:00～11:30 12:30～19:00	(土) 9:00～11:30
相模原キャンパス	学務課 (B棟1階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～17:00	(土) 9:00～11:30

\*上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」で伝達いたします。

\*長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」で伝達いたします。

### 窓口で取り扱う業務：

- 履修・成績に関すること
- 授業に関すること
- 休学・退学などの学籍に関する願出
- 教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員)取得に関すること
- 証明書の交付

種類	交付方法	問い合わせ窓口		手数料 (1通につき)
		青山キャンパス	相模原キャンパス	
①在学証明書	自動発行機	教務課	学務課	和文 400 円 英文 400 円 ※卒業証明書は 窓口発行
②成績証明書				
③履修科目証明書				
④卒業見込証明書				
⑤学力に関する証明書	窓口	教職課程課	学務課 教職課程担当	和文 400 円
⑥教員免許状取得見込証明書				
⑦各種資格取得見込証明書				
⑧健康診断証明書（和文）	自動発行機	保健管理センター		和文 400 円 英文 400 円 ※英文は申請1週間後に交付
⑨健康診断証明書（英文）	窓口			

- 注意 -
- ・自動発行機による証明書は、本学書式による証明です。
  - ・提出先が定めた指定書式による証明が必要な場合は、別途各在籍キャンパスの証明書取扱窓口まで問い合わせてください。
  - ・証明書用封筒は学務部教務課（青山キャンパス）・学務課（相模原キャンパス）又は、保健管理センター窓口でお渡しします。また、厳封が必要な場合は窓口に申し出てください。
  - ・上記以外の証明書が必要な場合は窓口で相談してください。

\*電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。

\*提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth,The Light of the World

青山学院スクール・モットー

学生番号

氏名